

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の評価に係る

「ふり返しシート」調査報告書（令和3年度）

目 次

■調査の実施		1
■調査結果		1
共通指標		2
鶴岡地域	単位自治組織	8
//	広域コミュニティ組織	15
藤島地域	単位自治組織	21
//	広域コミュニティ組織	25
羽黒地域	単位自治組織	29
//	広域コミュニティ組織	34
櫛引地域	単位自治組織	37
朝日地域	単位自治組織	40
//	広域コミュニティ組織	44
温海地域	単位自治組織	47
<参考>	「ふり返しシート」調査票（鶴岡地域単位自治組織の場合）	53

■調査の実施

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の地域課題に基づき、住民主体によるまちづくり活動の現状を評価・検証するとともに、今後のまちづくりの在り方や方向性を探るために、「ふり返しシート」の作成を依頼しました。

- ①調査対象 単位自治組織 463 組織、広域コミュニティ組織 33 組織の長
- ②調査時期 令和3年11月以降に配付。提出期限は令和4年4月下旬
- ③調査方法 郵送配付。回収は、市役所またはコミュニティセンターにお持ちいただくほか、メールなど
- ④回収状況 次のとおり

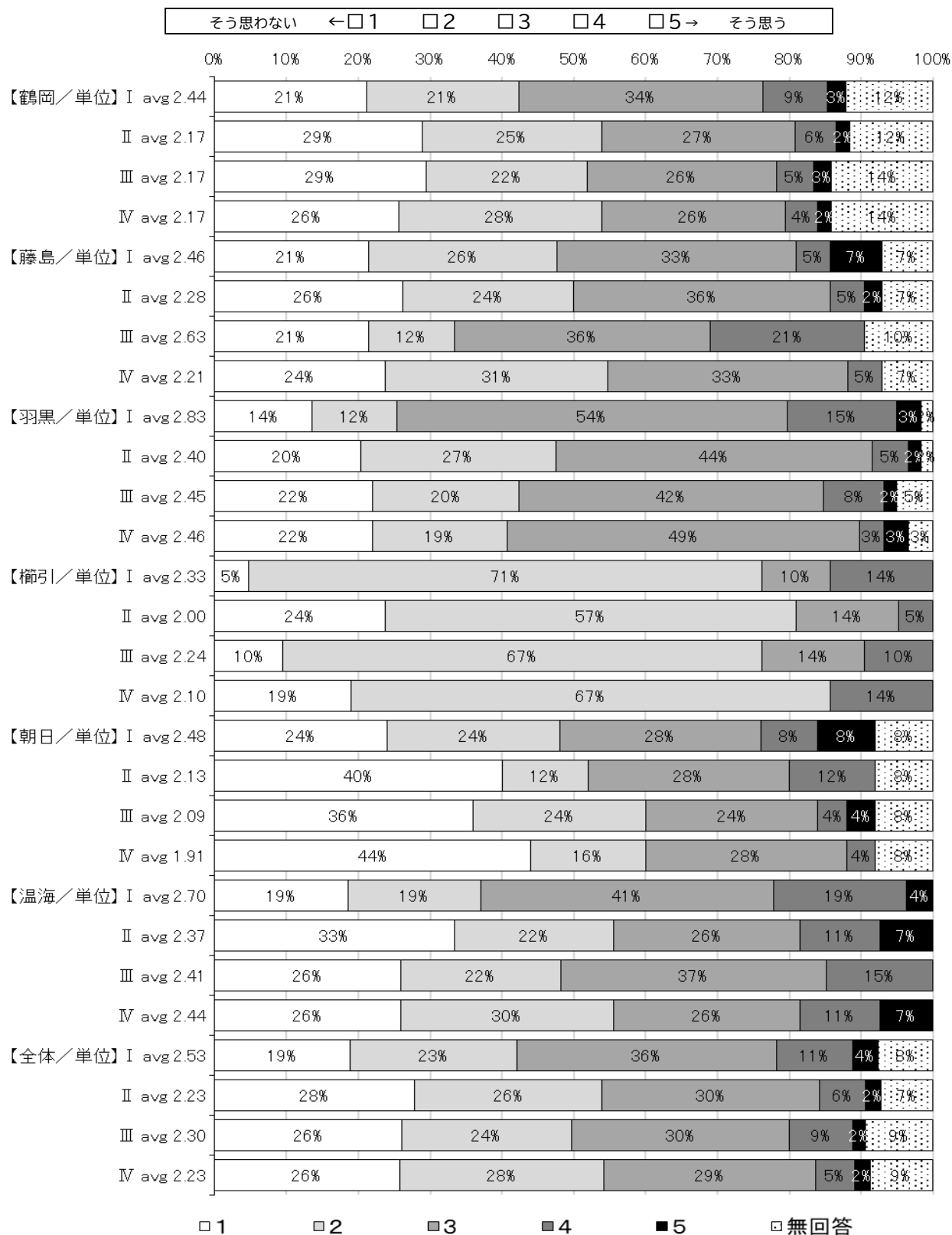
		調査対象数	回答数	有効回答数	有効割合
鶴岡	単位自治組織	247	155	155	62.8%
	広域コミュニティ組織	21	21	21	100.0%
藤島	単位自治組織	61	42	42	68.9%
	広域コミュニティ組織	5	5	5	100.0%
羽黒	単位自治組織	69	59	59	85.5%
	広域コミュニティ組織	4	4	4	100.0%
櫛引	単位自治組織	21	21	21	100.0%
朝日	単位自治組織	38	25	25	65.8%
	広域コミュニティ組織	3	3	3	100.0%
温海	単位自治組織	27	27	27	100.0%
合計	単位自治組織	463	329	329	71.1%
	広域コミュニティ組織	33	33	33	100.0%

■調査結果

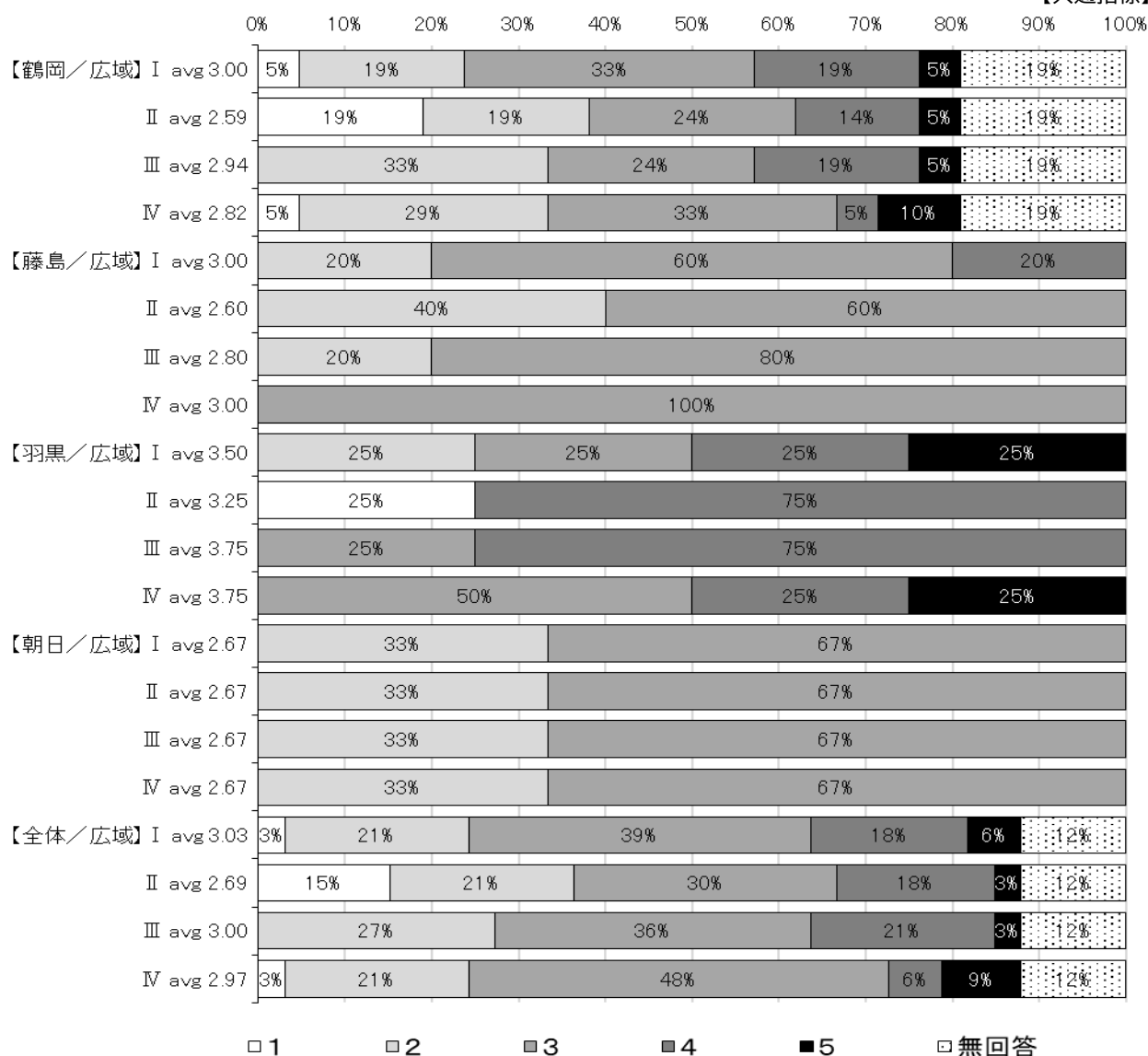
共通指標、地域課題（地域別、単位自治組織・広域コミュニティ組織別）の順に次ページ以降に示します。

5段階評価

- 項目Ⅰ 住民同士の対話（話し合い）を積極的に行った
- 項目Ⅱ 地域活動への参加者が前年よりも増えた
- 項目Ⅲ 子どもが活躍できる環境づくりを促進した
- 項目Ⅳ 組織間の連携や地域外交流を促進した



5段階評価の回答割合（R3 単位自治組織）

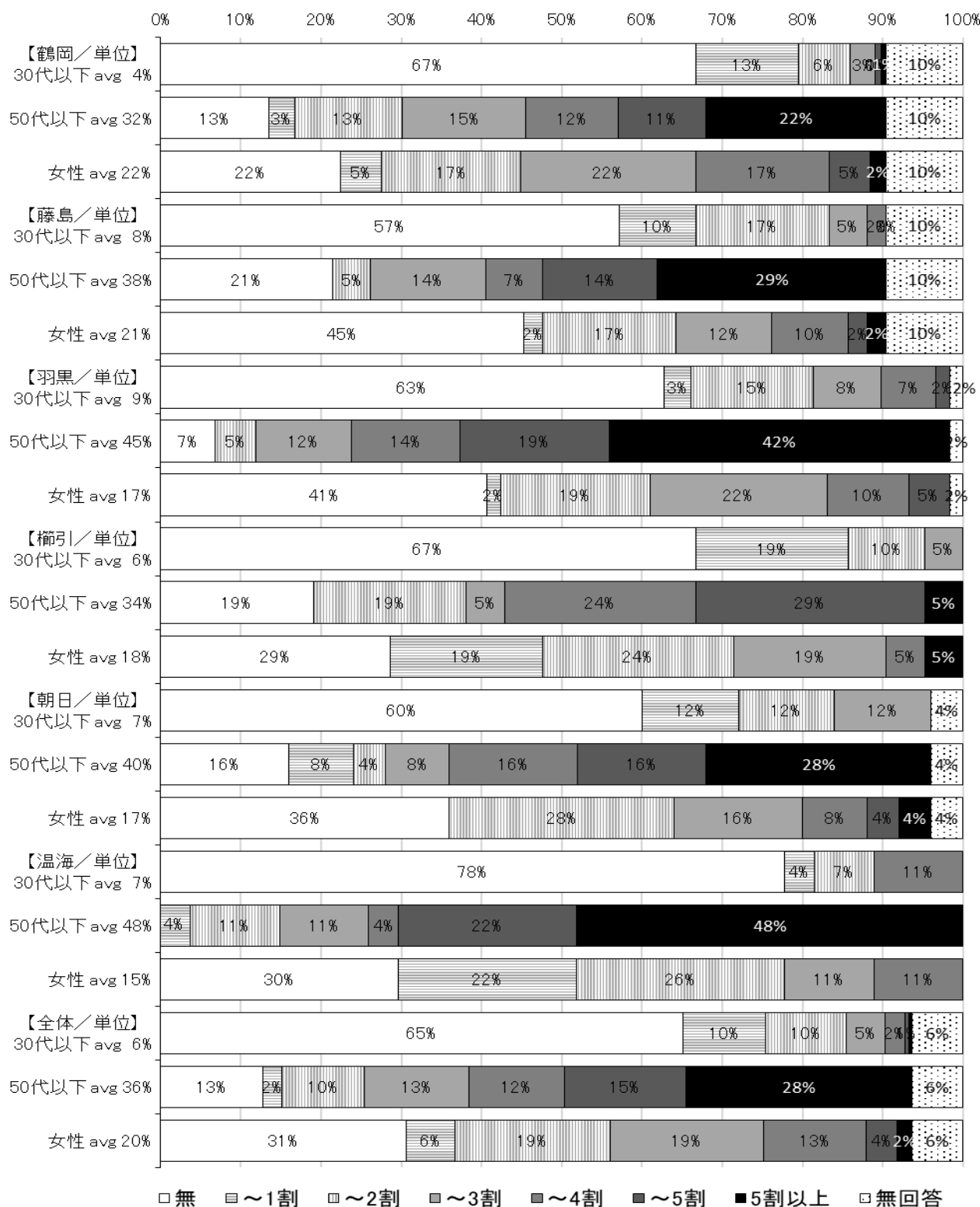


5段階評価の回答割合（R3 広域コミュニティ組織）

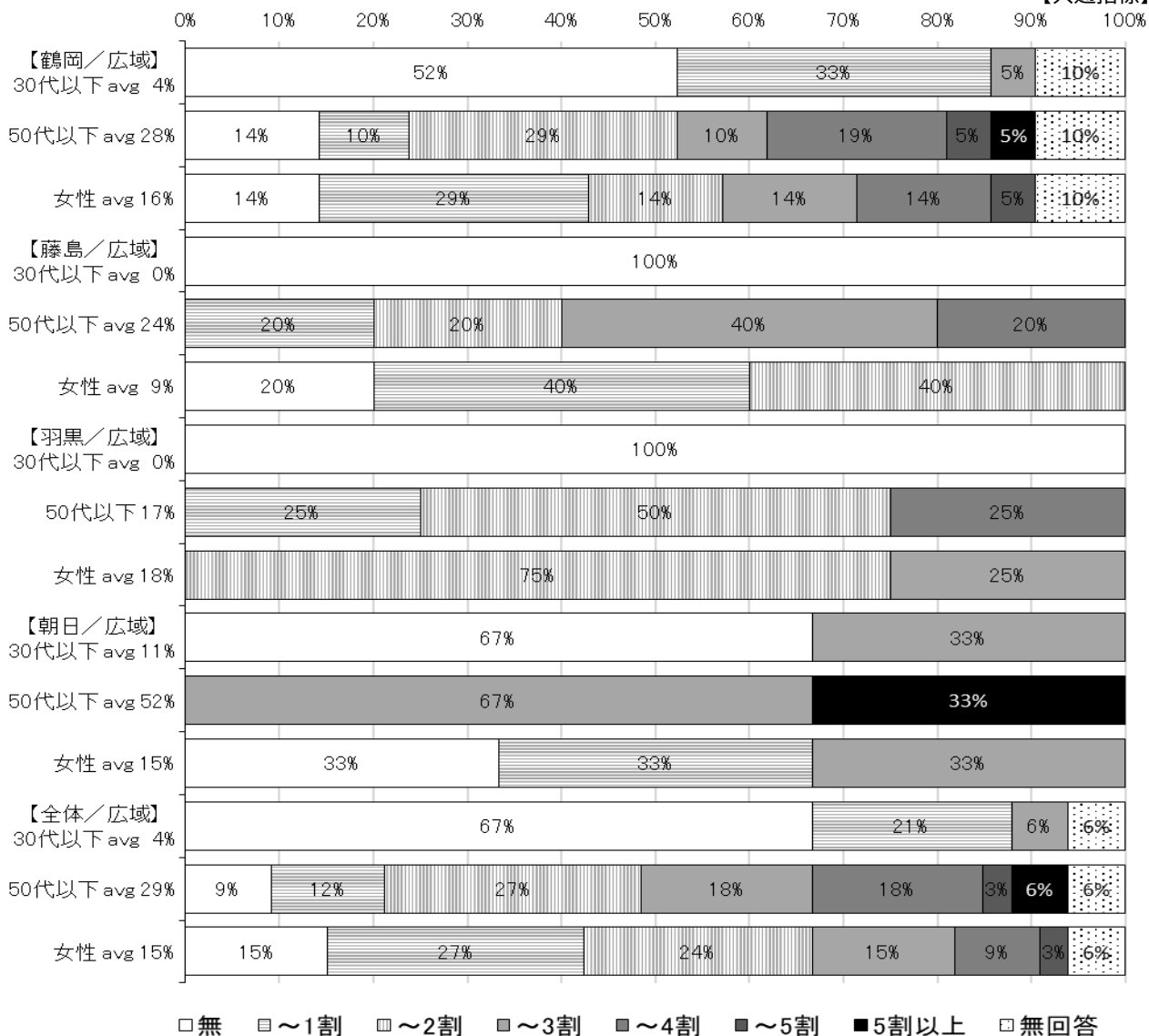
5段階評価の平均値

		R3				R4				R5				R6				R7				
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	
単位自治組織	鶴岡地域	2.44	2.17	2.17	2.17																	
	藤島地域	2.46	2.28	2.63	2.21																	
	羽黒地域	2.83	2.40	2.45	2.46																	
	榑引地域	2.33	2.00	2.24	2.10																	
	朝日地域	2.48	2.13	2.09	1.91																	
	温海地域	2.70	2.37	2.41	2.44																	
	全地域	2.53	2.23	2.30	2.23																	
広域「三」組織	鶴岡地域	3.00	2.59	2.94	2.82																	
	藤島地域	3.00	2.60	2.80	3.00																	
	羽黒地域	3.50	3.25	3.75	3.75																	
	朝日地域	2.67	2.67	2.67	2.67																	
	全地域	3.03	2.69	3.00	2.97																	

役員構成



若手（30代以下、50代以下）・女性が役員に占める割合（R3 単位自治組織）

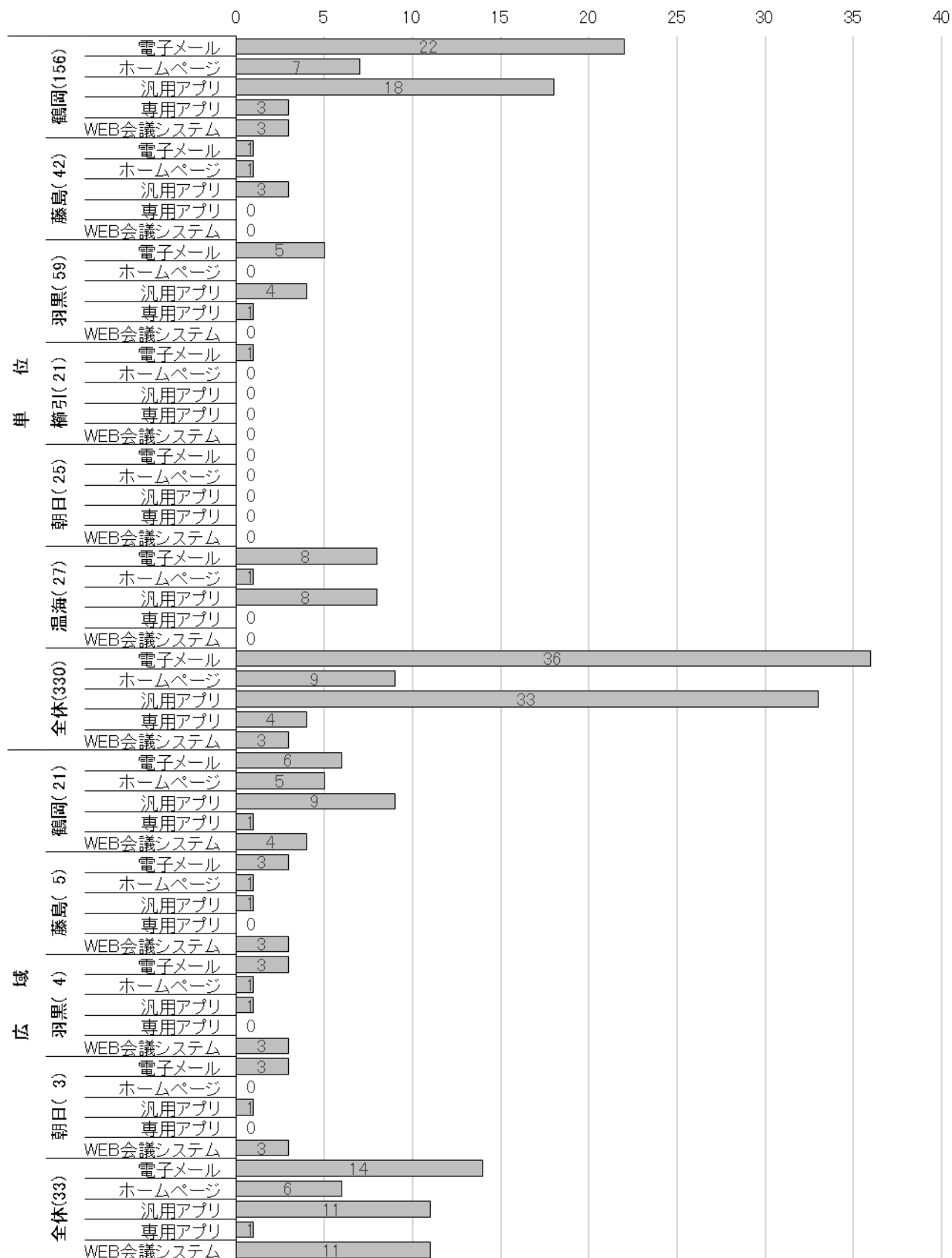


若手（30代以下、50代以下）・女性が役員に占める割合（R3 広域コミュニティ組織）

若手（30代以下、50代以下）・女性が役員に占める割合（平均値）

		R3			R4			R5			R6			R7		
		30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性
単位自治組織	鶴岡地域	4%	32%	22%												
	藤島地域	8%	38%	21%												
	羽黒地域	9%	45%	17%												
	櫛引地域	6%	34%	18%												
	朝日地域	7%	40%	17%												
	温海地域	7%	48%	15%												
	全地域	6%	36%	20%												
広域コミュニティ組織	鶴岡地域	4%	28%	16%												
	藤島地域	0%	24%	9%												
	羽黒地域	0%	17%	18%												
	朝日地域	11%	52%	15%												
	全地域	4%	29%	15%												

デジタル化の推進



※括弧内の数値は、回答いただいた組織数。

デジタル化の推進状況（各種デバイスを利用している組織数、単位自治組織・広域コミュニティ組織）

■自由記述から一部抜粋（単位自治組織）

- ・町内会 Facebook の継続。
- ・ICT 健康教室を開催（健康教室会場を Zoom でつないだ）。
- ・子供会や青年部は LINE を利用。個別には電子メールなどで使い分けしている。
- ・デジタル化について、育成会等若い人たちの団体内では活用されているが、自治会組織内では、まだまだ時間を要する。
- ・メールで連絡を呼び掛けているが、反応して参加する人は少ない。
- ・LINE や自治会町内会 SNS 「いちのいち」等を使って情報の発信や交換を行いたい。
- ・スマホ教室を開催し、地域住民がスマホを少しでも使えるようになってもらいたい。
- ・町内会で各種設備を整備したいが補助などあればと思う（プロジェクター、Wi-Fi、防災用品等）。
- ・自治会では有線放送で対応している。

■自由記述から一部抜粋（広域コミュニティ組織）

- ・広域コミュニティ組織の連合組織や市担当課、市社協等とは、オンライン会議を行った。
- ・公式サイト、Twitter、LINE で情報発信したほか、新しいツール（グループワークやオンライン会議）を導入し、コロナ禍でも業務を継続できる体制づくりを行った。

地域課題① 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 事業（地域活動）の棚卸し、事業内容の見直し
- 役員の負担軽減に向けた組織体制・役員構成の見直しや運営マニュアルの作成
- 後継者や次代のリーダーの育成を意識した組織運営
- 女性の力やこれまでの経験を活かし、活躍の場を拡大
- 女性や現役世代が参加しやすい環境づくり
- （役員を輪番制としている場合）新しい課題や事業にも対応できる組織内の連携
- 会費のあり方の検討
- SNSの活用など新しい生活様式の導入
- 単位自治組織の連携・統合等の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	69	44%
取り組まなかった	84	54%
無回答	3	2%

具体的取組とその効果など

- ・役員の若返りを図り、併せて、女性の役員登用を図った。
- ・役員の高齢化が進み、これまで役員が行ってきた事業を外部に委託することについて検討した。運営面及び経費面が課題として挙げられ今後の検討事項とした。
- ・ブロックを主に組織改革を試みた。組の上部に班長を置き、その上にブロック長として、任期は1年、輪番制とした「仕組みづくり」の提案を回覧板で行った。役割の広報配付と集金だけでも負担は大きい。町内会は500世帯を超え、範囲も広く役員負担は大きい。結果として、2名の方からご意見を頂いたが、役員の調整が出来なかった。でもあきらめてはいない。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、「敬老会」「隣組長慰労会」については町内会会長の挨拶文と地元スーパー商品券を贈呈する形に見直し行ったが、関係者から好評を得て効果があった。
- ・広報活動や育成部役員との連携等に力を入れているが、結果が伴わない。
- ・町内会とは別組織として活動していた高齢者サークルと話し合い、町内会代表がその運営に参加することで同サークルを「町内会が運営に係る団体」と認定し、町内会が活動の紹介、会員の募集などの支援ができるようにした。
- ・過去10年間に子供会役員を経験した若手と、町内会活動に関する話し合いの場を持った。役員負担を軽減するための行事見直しや行事削減にこだわりはないようだが、役員になる人は出てこなかった。但し、役員は無理でも、各行事へのスポット的な協力をするという人は多くいた。
- ・夏祭りの運営主体（実行委員会）を町内会組織から若手組織（有志）にできないか若手と相談した。取りあえず、夏祭りだけでも過去のやり方を白紙にして、若手の考え方が大きく反映できれば、他の行事への関心にも繋がり、将来的な影響は大きいと期待している。
- ・（町内会が広範囲にわたるため、）川を挟んでの地区（28世帯）に地域担当部長を置き、防災等の情報把握や連絡・連携のフットワークを良くした。
- ・コロナ禍の中にあって、これまでの行事の代替として、「SDGs GOTO ウォーキング」や、町内の神社境内をお借りして「秋祭り」等を行って、意識の高揚を図った。
- ・一昨年町の規約改正から（町内会役員の）選考委員の構成見直しを行い、若返り及び女性化の推進が出てき始めた。女性役員も1名から6名になった。
- ・「役員推薦委員会」役員改選に伴い推薦委員会を立ち上げ、選考の考え方など検討し、依頼したが、十分な効果は今のところ無し。
- ・5月から10月まで、町内の公園で「ラジオ体操」を実施。近隣の町内からの参加者も含め、1日30人を超える。朝の挨拶や会話があり、つながりもできて心も体も元気に体操を楽しんでいる。優良団体の表彰も受けた。
- ・コロナ禍を契機に実施事業の見直しを図った。一方で、町内会活動の減退と受けとられないか心配

な面もある。

- ・各部長が担う業務の軽減を狙い、部員の刷新（若手の配置）を図った。現役に負担を掛けるが、それなりに活動してくれた。
- ・農地水環境保全会を通して、子供から大人まで住民全体でホタルの調査に当たっている。
- ・（町内会役員が）輪番制となっており、年代に偏りがあることについて、他団体を含めて協議した。
- ・次世代役員の就任と円滑な運営体制にむけ、役員及び運営委員の就任内規を新たに定めるとともに、退任役員によるフォロー体制を強化した。
- ・ホームページ、LINE など、情報伝達のデジタル化による省力化を検討した。
- ・S47年頃の河川改修に伴い発足した町で、それ以降いち早くSDGsに取り組んできたつもりである。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・（今後は）業務を属人化せず、一人一役の自律分散型へ転換できると良い。

地域課題② 活動の担い手となる人材の確保と育成

★具体的取組の例

- 若者が参加しやすい環境づくり
- 子どもから高齢者まで参加できる交流型事業の実施
- 子ども会や中高生、大学生、若い世代等が企画運営する事業の実施
- 単発的なスタッフ参加から、企画運営など継続的な参加につながるような、一過性に終わらない関わり方の検討
- 人材育成研修事業への参加
- 得意分野を活かした役割分担により、自分が必要とされている喜びや達成感を感じる仕掛けづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	66	42%
取り組まなかった	86	55%
無回答	4	3%

具体的取組とその効果など

- ・町内会役員は若返ったが、働いてる人が多く、行事の参加率は少ない。
- ・市の自主防災組織指導者講習会に1名が参加し修了証を受領したことは、町内会自主防災計画の推進と人材育成として効果があった。
- ・町内PTAとの連携、協力（PTA役員から必ず1名は町内会役員へ入ってもらい、町内とのパイプ役をしてもらった）。
- ・子供育成会の保護者と中学生において、年2回の資源回収を実施。保護者において将来の組織づくりを検討中。
- ・若年層の掘り起こし・語り掛け、次世代同士の交流への補助、夏祭り・運動会など事業計画の策定を任せる。
- ・子ども育成会長、中学校地域部長を町内会役員とするなど若い人材の確保に努めた。
- ・永年務めている部長のもとには出来るだけ比較的若い副部長を配置するように心掛け、来るべき世代交代に備えるように配慮している。
- ・若い世代で構成される「青少年育成部」へ資源回収事業への手伝い参加を呼びかけ、町内会活動参加への入り口・意識づけになるよう心掛けている。
- ・新規事業の「秋祭り」等は、子ども会の保護者で組織する「育友会」と開催準備内容などを共催し、こんなに子ども達と若い親たちが居るか、の盛況であった。
- ・子供会役員OBに町内会役員への参加を積極的に依頼しており、徐々にその成果が見られる。

- ・町内会が助成している団体に、公民館運営に参加を依頼している。
- ・広域コミュニティ組織が取り組む事業に、積極的に人員を派遣した（育成を込めて）。効果が表れるには時間を要すると思われる。
- ・本年度の役員改選では、女性副会長、若手（40代）の会計担当が役員に選任した。
- ・子供たちが参加出来る交流型事業について、保全会、生産組合、町内会、子供会の各団体が連携して取り組んでいる。町内の各団体への呼びかけにより、高齢者等との交流事業のあり方について検討している。
- ・役員の人材は、育成会、公民館役員を経験して自治会役員になる流れが定着している。
- ・公民館活動を中心に若手世代への役割の委任並びに世代間協力の深化。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・小中学校の町内子供会の時には一生懸命な若手も、子供会の終了と共に町内会と距離をおくようになる。子供会が終わっても若手主体の夏祭り（毎年実施）の実行委員へと関係を続けることで、いずれ町内会役員へも繋がると期待しているし、そのような取り組みが、持続可能な組織作りになると考えている。
- ・役員のなり手がなく、令和4年度に1年間かけて、役員選出検討委員会を設立し、今後の活動の担い手、働きながらできる自治会活動を検討して行く。

地域課題③ 情報発信と会員確保

★具体的取組の例

- 住民自治組織の存在意義や役割、活動等を広報紙のほか、ホームページやSNSを併用して発信
- 転居者や未加入者、アパート家主などへの加入勧誘

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	66	42%
取り組まなかった	84	54%
無回答	6	4%

具体的取組とその効果など

- ・町の広報は2～4頁仕立てで毎月発行しているが、読み手が知りたいことに応えているかが課題。会員に知って頂きたいことは、クイズにして周知している。毎月クイズ応募者の抽選をして、3名に雪若丸2kgを贈呈している。また、新しく町内に移住された方には、隣組長が加入誘いの訪問をしている。報告を得て、町内会で防災避難用のリュックやゴミカレンダー、町の総会資料、規約、交通安全の反射シールなどをお渡しし、広報の「ようこそ」欄で紹介をしている。お子様誕生時にはお祝い金1万円を差し上げ、広報にもお祝いの紹介をしている。
- ・町の広報誌を年4回発行するほか、町のHPで情報の共有化を図っている。
- ・役員の一部で試験的に、HPやラインを利用しての情報発信を準備検討している。
- ・コロナ禍で集合や会合が難しく、その補完として町内会長から年3回お知らせを発行した。

地域課題④ 地域課題の解決に向けた取組の実施

★具体的取組の例

- 課題の把握と共有のための、気軽に話し合える雰囲気や場づくり
- 有償ボランティアの検討など、課題解決に取り組むための新しい事業等の検討
- 関係組織・団体との連携や広域コミュニティ組織との役割分担など課題解決に取り組むための仕組みづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	65	42%
取り組まなかった	84	54%
無回答	7	4%

具体的取組とその効果など

- ・ゴミ分別の啓蒙をするため、ゴミ出しの実態調査を年2回各3週間行い、結果の報告と違反ゴミ持ち帰りの啓蒙文書を回覧した。
- ・子供会主体の活動（資源回収）が人員不足で不可能となり、町内会主体に変わったが、子供会からも協力してもらうという形で、活動の継続性を図った。
- ・一人暮らし高齢者や体の不自由な方への除雪ボランティア。
- ・一人暮らし高齢者に対する福祉見守隊活動
- ・単身虚弱高齢者など、見守り対象となっている高齢者宅前の除雪ボランティア活動を町内会で有志をつのり実施した。過度に組織化せず、ゆるやかなボランティア意識による敷居の低い、参加しやすい活動を心掛けている。
- ・「おかげさま券」…一つの隣組（35世帯）で、高齢者世帯の除雪や軽作業（ゴミ出し、買い物、電球交換、家具移動など）を支援する取り組みを実施している。当初無料で実施したが、謝礼について問題が出て、有料とすることになった。令和3年度の実績は100円券で7,000円。収入は隣組で行事がある時に支出し、運営の主担当は隣組の防災担当者が担っている。
- ・「まちづくり座談会」…まちづくり等いろいろな活動に関わる方をゲストに迎え、話を聞く会。令和3年度は3回実施し、元地域おこし協力隊員や社協の元学区担当者、町内の飲食店から体験談やこれからの活動のアイデアになる話を聞くことができた。
- ・単体の町内会では実施の難しい案件について、広域コミュニティ組織の行う事業への参加を呼びかけた。
- ・高齢化や独居が今後とも進むと思われる中、気軽に声かけや、対応ができるような雰囲気づくりを心がけている。また、会員の小さなご意見でも、町内会の課題として取り上げ、会員相互の理解の中で、問題解決に取り組んでいる。
- ・広域コミュニティ組織（自治振興会）の活動には取り組んでいるが、高齢化対策・空き家対策・活動の担い手不足など単位自治組織（町内会、自治会）独自の解決策はなかなか進まない。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・例年、多くの住民が参加するよう福祉座談会と芋煮会を同時に開催し、住民の情報交換と地域課題の把握に努めてきたが、今年度はコロナ禍で開催できなかった。
- ・「町内会に入って何がメリットか」と特に若い方々からお話がある。答えは簡単で、自分に与えられる利得を考える前に、町内会会員として自分は何が出来るのか、ご自分が一会員としてお隣に何をしてやれるか、先ず考えて実行して欲しい原点である。それから自分の利得を有難く思えば良い。

地域課題⑤ 災害に備えたコミュニティづくり

★具体的取組の例

- 会員情報の把握と顔の見える隣組の関係性の構築
- 災害時に、声掛けや安否確認、避難誘導を行うことができる体制づくり
- 市の災害時避難行動要支援者支援制度に基づき、名簿提供に同意した要支援者の個別避難計画を作成
- 空き家情報の把握と市への情報提供

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	86	55%
取り組まなかった	67	43%
無回答	3	2%

具体的取組とその効果など

- ・「住民名簿」を見直し、会員情報の把握に努めているほか、災害発生時避難要支援者・支援協力者相関表を作り、声掛けや安否確認を行う体制もできている。しかし、コロナ禍で具体的に機能するか効果確認できない状況にある。
- ・自主防災計画を策定し、全戸に配布した。今後は、おねがい会員・まかせて会員を募集し、結果をみて対応を考慮するほか、自主防災計画にのっとった訓練を予定している。
- ・コロナ禍で集団での防災訓練ができない中、アンケート調査を行い、高齢者や独居者、障害のある方など、避難困難者の把握に努めたほか、防災隊員を招集し、ネットやアプリを通じた情報収集の研修を行った。
- ・令和3年4月町内全戸を対象に「避難先アンケート調査」を実施。安否確認に役立てること、町民に避難先のキャパシティーが少ないことを理解いただき、災害時の避難先を考えてもらうことが主な目的であった。
- ・二次避難場所を共有する他学区の町内会と、避難場所の視察や経路確認など研修を深めた。
- ・災害時は、自主防災からの情報を福祉協力員が担当する高齢者へ連絡する体制をとっている（災害時の迅速な連絡網の構築に向け、従来メールで行っていた自主防災会の連絡網に町内会役員も加え、ラインによる連絡網に変更した）。
- ・会員に、災害時の安否確認、避難行動、救護救助等に応援を必要とする意思表示の確認をした。隣組回覧で、各戸各人から記入してもらい、69名の方から意思表示を頂いたので、災害時の救急行動に役立てる一助にする。回覧での意思表示のため、隣組内で共通理解の心が働いている。
- ・広域コミュニティ組織と共催で、避難所開設訓練を行った。健常者、身体障害者、ペット連れの方、要介護者、新生児連れの家庭、風邪等の感染者、子ども達だけの家庭など多様な避難者の、避難場所の区別、トイレや駐車場の確保、未避難者の確認、けが人への救助活動など、役員だけでなく健常者は全て避難所の役割分担をすることを学んだ。
- ・避難訓練をコミセンで実施する計画だったが、コロナウイルス感染拡大のため貸館中止となり、代わりに「防災アンケート」を実施した。324世帯(回収率85%)が回答。避難先の質問に、指定避難場所(50%)、自宅上階層(25%)、安全な親戚等(12%)、安全なホテル等(5%)。いつ避難するか質問には、避難指示(53%)、高齢者避難(53%)、大雨洪水注意報(3%)。2つの質問に、「考えていない」「その他」の回答もあった。防災・減災について考える機会になればと考えている。
- ・町内の公園で防災訓練を実施。コロナ禍のため、隣組長、隣組防災担当、自主防災隊員に限定し、45名が参加。リスク回避により限られた項目ではあったが、全員でテントを張る、水消火器の操作、負傷者の搬送など実体験型で実施した。
- ・町内には60を超える空き家があり、増加傾向にある。空き家等の状況を見て何か有効な利用方法を考えるべく、「空き家空き地探検」を毎年実施しているが、今年度は荒天のため中止した。
- ・町内会独自の防災マップを作成。全戸配布したほか、町のHPにも掲載し意識改革を図っている。
- ・市や地区主催の研修会には参加しているものの、その内容が個人のものととどまっている。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・緊急時の連絡先リストを各家庭の冷蔵庫に貼ってもらっている(探す手間なく、すぐに連絡先が分かる)。

地域課題⑥ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 子どもの頃から地域の自然や歴史、文化、伝統、産業等への理解を促すような機会づくり
- 開催日や運営形態等を工夫し、若い人材の確保や大勢が参加しやすい仕掛けづくり
- 子どもから高齢者まで世代を超えたつながりの創出

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	41	26%
取り組まなかった	109	70%
無回答	6	4%

具体的取組とその効果など

- ・緑化事業補助金を活用して、町民の憩いの場であり交流活動の中心となる公園の全面芝生化に4年計画で取り組んでいる。
- ・町内会創立当時以来継続している「みかぐら」は小学5年生から中学生まで参加し、指導は高校生や社会人にも至っている。町の宝であり今後も継続していきたい。
- ・子供から大人まで参加できる世代交流町内グラウンドゴルフ大会や卓球大会を開催している。
- ・毎月、住民参加の公園整備を行っている（5月～11月）。
- ・芸工大の学生と住民有志で「未来を語る会」を立ち上げ、地域の魅力や課題を話し合った。
- ・事業開催日や運営形態を工夫し、若い人材の確保や大勢が参加しやすい方法を検討した。
- ・これまで、夏祭り実行委員を中学生に委ねて来たが、大学を卒業し、郷土に戻ってきている若者も出てきているので、この年代の取込みも図って行きたい。
- ・地元に残る伝統芸能大山いざや巻を子供達に指導し、発表会等を開催している。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・世帯数 50 弱の小さい町内会であり、高齢化率も 40%を超え、深刻な高齢化問題と後継者不足の悩みを抱えている。町内会運営をいかにして存続していくかが大きな地域課題であり、近い将来、近隣の町内会との合併も検討課題になると思われる。
- ・コロナ禍のため、住民を大勢集めた事業ができない。このため、自主防災計画は作ったものの、具体的連携を図る説明会ができず、災害時を想定した訓練ができていない。
- ・町の半分がアパートであるが、名簿を掌握していないので、災害時の対応を考えなければならない。
- ・隣組ごとの結束力はある程度あるものの、町内会単位となると帰属意識が低く、行事をやっても参加者が少ない。
- ・再開発や宅地造成などを背景に居住世帯等が半減した上に、定年延長や体調不良等で役員のなり手が絞られた。就学児童もゼロになり、小中学校の行事によるつながりも無くなった。働く世代は横のつながりの機会もなく、コミュニティにどの程度関心があるのかさえもわからない。
- ・町内会役員のほとんどが有職者であり、災害時などは職場に出勤しなければならないことから、組織的な避難や避難所運営が困難となることが危惧される。
- ・少子高齢化が進み、特に一人暮らし世帯も増える傾向にあると思われるため、自主防災組織などと連携した地域づくりを心がけたい。
- ・長年放置された空き家が朽ちてきて危険な状態のままであること。
- ・高齢化や利己的孤立化が進み、輪番的に行ってきた組長の任を放棄する状況が多くなっている。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・町内会費のキャッシュレス化と回覧板のデジタル化。
- ・働く世代の横のつながりを作りたいので、まずは、ネットによる情報共有を行い、これを紙媒体での回覧と合わせて高齢者にも情報提供したい。問題は、働く世代を惹きつける話題であり、昔なら酒飲みに誘うところだが、今は酒も飲まず、社会にも出ない者も多い。リアルタイムでのつながりも難しく、何をきっかけにどう開始したら良いものか。
- ・高齢化に伴う免許返納者に対応できる交通インフラの要望と、食材の宅配やフードデリバリーの充実など中山間地集落の持続可能な環境づくりに取り組みたい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・福祉、防災、公園、コミュニティ推進など町内会と市役所の各部署とは多岐につながりがあり、それらを把握して活動することは困難な面があることから、市職員からも地域担当職員などの配置によるきめ細かい連絡体制の構築に協力いただきたい。
- ・市役所職員の地域活動への積極的な参加を促していただくとともに、義務免など必要としない業務としての参加できる仕組みを構築していただきたい。
- ・他人まかせ意識の広がりを懸念している。
- ・民生児童委員のなり手が不足しており、職務の改善、待遇の検討をお願いしたい。
- ・(コロナ禍のため) 会議が少なくなり、色々な情報が入ってこない。
- ・働き方改革や定年延長など就労状況の変化により、以前のように定年退職後に地域貢献活動として町内会活動へ参加することが年々難しくなっているように思う。現役世代の参加を促すためには、地域コミュニティ活動参加を雇用主側がもっと評価するシステムが出来ないものかと思っている。例えば、公務員や教員などは町内会役員をしている場合は人事考課で一定のポイントがプラスされるとか…コミュニティ自身の努力に任せるだけでなく、社会の側でも何らかのインセンティブを導入出来ないかを考えてほしい。
- ・さりげなく公園の除草やゴミ拾いなど、個人でのボランティア奉仕活動をされている方もいらっしゃって、とても有り難い事である。お一人暮らしの男性高齢者に、冬期間食事を作ってくれたりして下さった方々もあり、感謝ばかりであった。高齢者宅の除雪や排雪をして下さった方もおり、うれしいことである。公民館の周りの清掃を何となくさりげなくされている方もおられ、笑顔ばかりである。学童の下校時に見守りのご近所さんもいて、子ども達との会話談笑が楽しいおばさん達である。町内での助け合い支え合いが当たり前町内会・そして有り難うの心のお返しが素直に出来るまちづくりが未来に続きます。
- ・町内や地域の活性化には、町内会員に対するリーダーシップを熟成できる環境づくりなど、市から指導をいただきたい。
- ・河川の草刈りや山道の保全などに住民が協力しているが、高齢化と人口減少で効果的な省力化が早急に望まれる。対応の支援策を一層ご検討頂きたい。
- ・遅れている情報伝達のデジタル化にも地域で着手し始めたばかりだが、官公庁だけでなくコミセンなどの公的機関も率先してデジタル化を活用できるような総合的な支援策を検討頂きたい。
- ・少子高齢化で一人暮らしの高齢者が増えている。
- ・今年の総会（書面表決）では、公民館掃除を毎月組単位で行うことへの疑問が出された。「今までやってきたから」ではなく、自治会でやるべきことをスクラップ&ビルドする時期に来ていると思う。
- ・一人暮らしの除雪に関する調査があったが、結局隣近所で助け合ってということだった。他市のように市として除雪ボランティアに補助を出すなどの方策も検討してほしい。
- ・公共施設に対してはコロナ対策の補助金を活用した物品・設備の充足を促す取り組みが行われているが、町内会対象の補助事業はないのだろうか（例えば、公民館用空気清浄機の購入補助など）。
- ・何の説明もないままに「第2期推進計画」を送付し、本シート提出を呼びかけるこのような取り組みは丁寧さに欠ける。市が目指す姿について、コミセン単位での説明会、そしてコミセン毎に町内会単位の説明会など、推進計画が広く市民に意識されるような段取りが求められると考える。

地域課題① 時代の変化に適応する運営や事業展開と持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 事業の棚卸し、事業内容の見直し
- 学区・地区の現状に応じ、各種団体等との連携強化
- 事務局職員や地域活動の担い手が研修会へ参加し、地域活動を支え、つなぐコーディネーション力等のスキルの向上
- 地域を引っ張るリーダーや中核的グループなど多様な人材の発掘、集結及び育成
- 広報紙のほか、ホームページやSNSを併用した情報発信・情報収集の強化
- SNSの活用など新しい生活様式の導入

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	13	62%
取り組まなかった	8	38%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・現職世代の理事を増やすため、次年度より、区域の中学校PTAから特別会員に入ってもらおうことにしたが、誰もが都合がよい時間などなく、日程調整が難しくなりそうである。リモートでやる場合でも、デジタル化に対応できない世代が困ることなく、少しずつゆっくり移行していくことが必要だと考えている。
- ・平成27年度、広域コミュニティ組織、学区社会福祉協議会、学区町内会連絡協議会の事業の棚卸を実施した。事業廃止や新事業の発掘なども議論したほか、講師をお迎えして統合の進め方やこれからの自治組織の在り方など全国各地の自治会の先進事例などを学び、28年度に3組織の統合に到った。今後の課題としては、小規模な組織の再度統合も視野に入れ、イノベーションのできる、コーディネーターの採用が急務と考えている。
- ・HPを開設して、積極的に情報発信を行った。
- ・事業の棚卸を行い、一覧表にまとめた。
- ・14回延べ140名にてワークショップを行い、『地域ビジョン』を策定。ビジョン推進委員会を立ち上げ、4領域にグループ分けして推進している。また、自治振興会の中に若者中心の約20名による「未来創造事業部」を組織し、ビジョンの推進の主力メンバーになっている。
- ・住民の負担軽減と高齢者世帯の増加へ対応するため、自治会費査定基準の見直しを行った。
- ・事業の見直し、役員が大変な思いをしないイベントづくりを進めた。
- ・生涯学習講座について、学習コースを整理統合して、分かりやすく手間のかからない構成に見直した。講座のおためし券を利用いただき、受講者増につながった。
- ・公式サイト、Twitter、LINEで情報発信したほか、新しいツール（グループワークやオンライン会議）を導入し、コロナ禍でも業務を継続できる体制づくりを行った。
- ・これまで運営や事業は広域コミュニティ組織役員で考えてきたが、令和4年度は、新たな事業を展開したい団体や人に補助金を出せるよう予算化した。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・コロナ禍で体育系のイベントがほとんど出来なかったことから、アフターコロナを見据えた新たな体育事業の在り方について検討を求める声上がり、令和4年度の検討課題としている。

地域課題② 「地域ビジョン」策定など地域課題解決に向けた取組の強化

★具体的取組の例

- 地域の現状と課題や魅力、価値を共有するワークショップの実施
- 有償ボランティアの検討など、課題解決に取り組むための新しい事業の検討
- 課題解決に取り組むための仕組みづくり（関係組織・団体との連携や組織体制の見直しなど）
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	13	62%
取り組まなかった	8	38%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・各町内に共通する役員の成り手不足、高齢化、世代間のギャップなどの問題解決のため、初めて、広い世代が話し合うワークショップを開催した。
- ・令和元年度、4回にわたりワークショップを実施し、地域活動の方向性を示したプロジェクト計画書をまとめ、それを基本にして現在活動を実践中である。今後、取り組むテーマについては明確化されているが、マネジメント能力のある人材確保が課題である。
- ・地域住民にアンケート調査を行い、問題の明確化を図るとともに、ビジョン策定委員会を立ち上げて数回会議を行った。
- ・地域ビジョン策定委員会を行い（コロナ禍のため実施回数は2回であった）、お互いが感じている課題を共有できた。
- ・地区内のサポート事業の一環として、除雪支援に特化した事業を検討した。令和4年度から実施できるように、事業の詳細や組織編制などを詰めていく。
- ・民生委員の協力のもと高齢者等見守り対策として、地域交流の場に相談機能を持たせた「なんでも相談カフェ」の実施や、「救急安心カード」の作成を行い、地域の様々な課題へ対処できる体制を整えた。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・持続可能な有償ボランティアの仕組みづくりとして除雪サポート隊を結成し、令和4年度から試験運用を行う。

地域課題③ コミュニティ防災のまちづくり

★具体的取組の例

- 被害情報の収集・伝達と避難所運営等を担う自主防災体制の確立
- 安全・安心、防災等共通課題をきっかけとした広域コミュニティ組織の連携

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	15	71%
取り組まなかった	6	29%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・学区防災団本部要員の技術・技能・知識向上に向けた訓練や、自主防災計画の作成・補完に向けた研修を行った。各町内会の福祉目線での自主防災体制確立、防災力向上支援のため、縦割り組織から関係組織横断のネットワーク体制に変更したが、参集範囲の絞り込みを行ったため、縦割り体制での研修となってしまった。
- ・これまでコミセンでの避難所開設訓練行っていたが、今年度は、住民が多く利用する小学校体育館での避難所開設訓練を初めて行った。今回は避難所を知るという目的で小学校体育館が避難所となった場合の避難所スペース配置、保管してある避難所物品と使い方、市避難所開設運営マニュアルの説明など、市防災安全課・コミュニティ推進課職員の協力のもと、各町内会から中核的な役割をする方3名ずつ68名の参加を得た。次年度は、学区防災計画で指定されている町内会で避難所運営委員会を設置して避難所運営訓練を行う計画。
- ・地震の際の第二次避難場所となるコミセンと小学校については、避難所スペース配置図が訓練を通して整っているが、全く手つかずの二次避難場所である公共施設があるため、市防災安全課より橋渡しをしていただき、振興会や関係する町内会の代表で避難所に関する話し合いと実際に利用できるスペースを見学させていただき、避難所スペース配置図を作成した。次年度は、関係する町内会と施設で具体的なことについて話し合いを持ち、いざというときに備えていく計画。

- ・昨年度から取り組み始め、令和3年6月に町内会長を対象とした学区防災計画に関する説明会、9月には各町内会の防災体制、避難場所等に関するアンケート調査を行い、学区の特性と予想される災害、防災マップ、情報連絡体制、災害時避難場所（地震の際の町内会ごとの基本的な避難場所を含む）、平常時・災害時の活動内容、各町の自主防災計画、避難所開設に関わる資料などを盛り込み、学区防災計画を完成することができた。リングファイル方式にしているので、変更内容は差し替えるなど、適切な更新・継続を図っていく。
- ・平成30年度、避難所運営ゲーム（HUG）を体験し、避難される色々な方々をカードに置き換え、迅速に何処へ避難させるかを学んだ。住民の皆さんの考え方が変わり、避難場所は近くにあればいいと思っていたのが、多くの部屋がある避難所が良いと考えるようになった。令和3年度は、より実践に近い「コミセン避難所運営マニュアル」を作成し、ここに避難する町の自主防災組織と合同で早朝での避難訓練を実施した。今後は、学区内の他の避難所でも展開したいと考えている。
- ・地域内の町内会長宅に配置している防災無線の運用について、従来のやり方を踏襲してきたが、より実情を踏まえた形の運用方法を検討してもらいたいとの要望を受け、次年度に向けて改善する予定である。
- ・各自治会に簡易トイレや救急アルミシート、LEDランタンなどの防災グッズを配布した。
- ・避難訓練を継続している。コロナ禍の影響を受けにくいように、同日ではあるが、地区毎に行い動作の確認、連携の確認を行った。
- ・地区自主防災計画を作成したほか、地域ビジョンの中でも「防災マニュアル作成」を掲げ、チームを立ち上げて地域住民の防災意識の向上に向けPR活動・周知の方法を検討中。また、年2回の津波情報伝達訓練を実施し、情報収集の体制づくりの訓練を行っている。
- ・地区の自主防災協議会を中心に、避難路点検や防災備品の整備、避難路誘導看板の設置を行った。津波避難訓練は悪天候のため中止としたが、当日視察に来られた方の講話を聞いて役員研修を行った。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・介助を要する避難者のサポートをどの様に構築していくか、今後の課題として取り組む予定。

地域課題④ 単位自治組織の機能補完

★具体的取組の例

- 単位自治組織と広域コミュニティ組織の機能補完・役割分担等の検討
- 単位自治組織が行う諸事業へのサポート

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	6	29%
取り組まなかった	15	71%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・生涯学習活動に力を入れ、各町内の住民から参加いただいている。町内以外の地域の方々との絆を深める場となっている。
- ・単位自治組織に求められる仕事が多すぎるのではないかと感じる。町内会の継続の為に、広報配布の民間委託など、負担を減らすことも考えていく必要があるのではないかと。
- ・単位自治組織が行う事業へのサポート。
- ・方法の変更等までには至らなかったが、会費の集金方法を検討する会を設けるなど、機会をつくるようにした。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・避難所運営の訓練など町内会の枠を超えた活動が広域コミュニティには求められており、それに応えていかなければならない。

地域課題⑤ 地域資源を活かしたコミュニティビジネスの検討

★具体的取組の例

- コミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 事業を通じて自分が必要とされている喜びや達成感・生きがいを感じる仕掛けづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	6	29%
取り組まなかった	15	71%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・以前から地域の特産物の加工を通して、地域の一体感を高め、環境保全と活性化を図っている。
- ・他地区とも連携している教育旅行や視察など、積極的に受け入れを行うと共に、地域の方をインストラクターにすることで、お金やノウハウの継承などを意識した。
- ・市所有施設を借用して、自治会活性化委員会（広域コミュニティ組織も構成団体）運営主体となり、住民主体の活性化事業として釣堀やカフェ・シャワー等の効果的・効率的な運営を行っており、交流人口の拡大や雇用機会の確保などの効果を得ている。
- ・まち歩きガイドを通して400名ほどの方が地域を訪れ、ガイドさんへ報酬をお渡しすることができた。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・地域ビジョンの中に、「漁業の維持・発展と、特産開発などの新たな産業おこし（地域に新たな挑戦を）」を掲げ、「①水に慣れ親しむ体験 ②天竜川を利用した特産品の開発」という活動内容を明記しており、コミュニティビジネスの展開を検討している。

地域課題⑥ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 学校と地域が連携し、地域の自然や歴史、文化、伝統、産業等への理解を促すような機会づくり
- 放課後子ども教室等を活用した、子どもたちの郷土愛を育む地域教育活動の実践
- 地域と学校の連携・協働によるコミュニティスクールの導入と地域学校協働活動の推進
- 小学校が統廃合した地区における交流機会の創出

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	18	86%
取り組まなかった	3	14%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・生涯学習講座等事業が中止となり、郷土史や文化などの情報紙面に振り替えた。ニュースソースの高齢化が進み、取材や寄稿を依頼したいキーマンを発掘することが難しくなっている。
- ・鶴岡地域まちづくり未来事業を通して、学区の歴史・文化を再認識することができ、学区の代表である地域まちづくり未来事業推進委員の方々と学区をさらによりよくしていこうという結束できたことも成果である。
具体的には、令和2年度、小学校児童が地域学習で調べた文化財の絵や見どころをもとにマップを完成することができた。学区のまちづくりキャラクターも住民に広く募集し、小学校児童の作品を採用。まち歩きマップ案内板やリーフレットにキャラクターの絵を入れ、親しみやすい案内板等を作ることができた。学区全体のマップを入れたリーフレットは、学区の全世帯に配布。小学校児童は、地域学習の取り組みを文化祭の劇で発表するなど地域とのともよいつながりができた。また、文化財説明板は、推進会議の文化財部会のメンバーで検討を重ねるとともに、市のアドバイザー職員の協力を得て、完成することができた。設置する上での確認等も丁寧に行い、各文化財ポ

イントに設置することができた。

このほか、まち歩きマップに載っている文化財ポイントを広く紹介したいと、はじめてウオークラリー大会を企画した。次年度もコースを変えて生涯学習部で継続して行う。

これらの鶴岡地域まちづくり未来事業の総まとめとして、学区の歴史・文化をまとめた冊子を発刊した。現在、希望する住民に配布している。

- ・小学生の居場所対策として発足したチビっ子広場は、コロナ禍で回数を減らしながらも、地域に根差したテーマで5回実施した。生涯学習推進員が企画運営指導を担当している。このほか、ふるさと少年少女教室（広域コミュニティ組織が助成し、小学校が企画実施）が学年ごとに行われた。
- ・夏休みの勉強会や親子七宝焼き教室、将棋大会や各種展示など青少年事業に取り組むことにより、郷土愛を育んできた一方で、一昨年まで実施してきたさわやか交流会（小学生が授業の一環として、コミセンサークルの活動の参加し、地域の先輩たちとふれあう）など2事業が廃止となり、新たな事業を考えていきたい。
- ・以前事業で作った史跡や文化財の案内板を新しくする計画があり、もっと見やすく興味を持ってもらうために、写真や読み仮名をつけたり、写真を半分ぐらい入れたり、設置場所も検討している最中である。
- ・芸工大の学生と「未来を語る会」を立ち上げ、地域の魅力や課題を話し合った。地域資源を活用すべく、山林整備や親子向けの催し等を計画している。
- ・鶴岡地域まちづくり未来事業の取り組みの中で、スクールバス停の壁画制作にあたり、小中学生が中心となって、絵のイメージを話し合い、原画を描き、ペンキ塗装を行って完成させた。
- ・各自治会の文化財巡りを毎年しながら、地元の再発見に努めた。
- ・「子ども・子育て世代が住みたくなる地区」を将来像に、鶴岡地域まちづくり未来事業の取り組みの中で、コミセン2階に子どもや子育て世代が集える場を整備した。地域の子どもからシニアまで巻き込んだ参加型ワークショップで作り上げた。
- ・放課後子ども教室を開設し、地域のスタッフが子どもたちへ様々なプログラムを通して、地域に愛着を持てるようサポートした。
- ・学校や保育園はないが、地域の歴史を整理し、環境を整え、誰でも訪れる事が出来る地域になった。
- ・地区の魅力を引き出し、地域住民が心も体も健康になれる場所づくりを行った。住民参加の整備や美化活動により、心のつながりや達成感を得た。
- ・小学校児童を対象に実施している体験学習プログラムで、県産材でのベンチづくりや地域のシンボルとなっている公園へチップ散布などを行った。ほかにも、小学校児童の町歩きや見学で共に学び、パネルディスカッションではコメントを寄せるなど地域学習へ協力したり、観光ガイドブックを発行して小中学校に寄贈したりした。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・少子高齢化、人口減少、空き家等の増加が急速に進んでいる。ライフスタイルや価値観の変化も著しく、地域への愛着や帰属意識の低下等から住民間の絆が薄れ、地域力の弱体化が危惧されている。特に大規模な自然災害が頻発しており、学区住民の生命を守り、振興会と町内会の連携強化と「自分の命は自分で守る」という防災意識の啓発を図ることが必要。
- ・高齢化・少子化が進み、特に昔からの町内会では役員の成り手もない状況がある。町内会を活性化するには、どうしたらよいか大きな課題である。
- ・地区内でも市街地近郊地域と人口減少・高齢化が進んでいる地域に2極化してきおり、体育事業等町内会対抗が難しくなってきた。皆が無理なく参加できる方式の検討が必要となっている。
- ・地域の人が集う祭りや行事など新型コロナの影響により開催できないのが当たり前になりつつあり、無くても困らないような風潮が広まる傾向がある。
- ・コロナ禍による自粛期間が長期化したことで、活動に参加すること自体を億劫に感じ始めている方が増えている。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・地震の際の二次避難場所となっている指定避難場所のそれぞれで、避難所運営訓練ができるようにつなげていきたい。
- ・避難所運営については地域活性化に繋がる切り口と思う。
- ・防災マニュアルカレンダーの作成、カーシェアリング、出張居酒屋等。
- ・地域ビジョンの計画に基づき、料理体験等のイベントツアー、避難行動カルテ作成、マップ制作等の事業に取り組んでいきたい。
- ・地域住民みんなが参加しやすい事業、若者（20代～小中学生の親世代）の地域参加、地域住民が儲かる事業。
- ・恒例行事等、世代間交流で楽しみ、歴史を感じながら子供達への伝承・橋渡しの出来る事業やイベントを行いたい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・地域コミュニティ及び町内会活動はボランティア活動として、今後とも継続維持することは難しくなると思う。コミュニティビジネスの展開をテーマとしているが、モデル地区を設定するなど行政主導で実践に向けたサポート体制を構築して欲しい。
- ・人を集める、あるいは人が集まることが、少子高齢化に加えてのコロナ禍で難しくなっている。分散していくコミュニティで支え合いを維持するにはどうすれば良いのか。思いつくのはデジタルの活用だが、それにはお金と教育と工夫が必要。まずはリアルな環境の中から、除雪ボランティアなどの身近で小さな関わり合いを積み重ねていきたい。

地域課題① 各世代が参加しやすい活動に再構築

★具体的取組の例

- 日常的に近隣同士が気軽に会話できる雰囲気や場づくり
- 各世代が単位自治組織活動に参加しやすい雰囲気や場づくり
- 子ども会や中高生などの若い世代、あるいは高齢者団体等が、それぞれの年代だけでなく幅広い年代を対象とする事業を企画・運営し、交流を広げる
- 住民自治組織の存在意義や役割、活動等を広報紙のほか、ホームページやSNSを併用して発信

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	18	42.9%
取り組まなかった	24	57.1%
無回答	0	0.0%

具体的取組とその効果など

- ・子供会や高齢者がいっしょにできる事業を企画した。
- ・防災研修会を開催し、若者から高齢者まで幅広く参加した。健康教室はコロナで開催できなく残念だった。
- ・常会などで問題点など話し合った。
- ・新年祝賀会を今年度は実施できた。男性の参加がほとんどでしたが各年代より参加頂いた。但し、毎年開催している祭典祝賀会や運動会反省会、夏のビアガーデンなどはコロナ禍のため実施できず残念でした。
- ・子ども会事業の中に田植・生き物調査・稲刈りの体験事業を開催。子ども会、町内会、生産組合、老クが参加し交流を深めている。

地域課題② 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 既存事業の見直し
- 隣組や班などの統合再編など組織の見直しや、役員構成の見直し
- 現役世代が参加できる役員体制と共通認識づくり
- 将来を見据えた会費のあり方の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	17	40.5%
取り組まなかった	25	59.5%
無回答	0	0.0%

具体的取組とその効果など

- ・役員体制を令和3年度より見直しをはかった。
- ・班体制の見直し(10→6)、役員体制の見直し
- ・役員会の充実と会計の役員手当アップ
- ・町内会費ランク分けの見直し
- ・公民館が築約50年になるので特別会計に公民館建設積立金を設けた。
- ・班長はじめ部員の廻り番に支障をきたしている班が出てきているので町内会運営委員会にて当面のあり方について検討した。
- ・既存事業の見直し、町内会における組織の見直しや次期役員の検討、将来を見据えた町内会費の検討
- ・将来を見据えた会費制度を4年度より実施予定。少ない家族構成になってきた現在に合った予算のあり方にする様に、少しずつだが変えていくことにした。
- ・若妻会は人員不足で解散し、町内会の全女性を対象(70定年)にした「女性の会」に統一した。

地域課題③ 広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直し

★具体的取組の例

- 既存事業の見直し
- 広域コミュニティ組織等と連携しての生涯学習事業の実施
- 多様な媒体を活用した事業周知、年齢層やライフステージを意識したPR活動

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	9	21.4%
取り組まなかった	33	78.6%
無回答	0	0.0%

具体的取組とその効果など

- ・地域活動センター事業への参加・見識が広がった。
- ・地域活動センターと連携して、年齢層やライフスタイルを意識した事業活動を実施
- ・地域活動センターの行事になるべく参加した(さくら回廊の草刈りなど)。

地域課題④ 広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくり

★具体的取組の例

- 自主防災計画の見直しなど自主防災組織の機能点検の実施
- 定期的な防災訓練の実施
- 緊急時や災害時に備えた住民情報の収集とその適正管理
- 地域における防犯意識を高めるための啓発活動の実施
- 学校、保護者、単位自治組織、広域コミュニティ組織、地域団体との連携による「見守り隊」活動の実践
- 空き家情報の把握と市への情報提供

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	21	51.2%
取り組まなかった	20	48.8%
無回答	0	0.0%

具体的取組とその効果など

- ・自主防災会で、安否確認のやり方について確認した。
- ・防災学習会の実施、活動センターと一体となった防災訓練の実施
- ・定期的な防災訓練、交通安全立哨の実施(春・夏・秋)年3回
- ・崩壊しそうな住宅があり市へ情報提供した。自主防災を定期的に行い安否確認を行っている。PTAが夏休み前に危険個所を子供たちとみてまわり注意する。
- ・空き家情報の把握と市への情報提供
- ・町内会役員で防火水槽の保守点検、水源確保するための堰止め機材の作成
- ・令和4年3月の地震発生時、高齢独居者の安否確認を行った。
- ・地域 PTCA で出た児童通学路における庭木のはみだし等について町内会連絡協議会の中の町内会長会にて対応した。自治振興会と消防団主催の防災訓練は、コロナ禍のため実施できなかった。
- ・自主防災組織の見直し、緊急時や災害時に備えた、住民確認表と被害状況表の作成、空き家の状況把握と市への情報提供

地域課題⑤ 地域福祉を近隣の輪で支える体制を再構築

★具体的取組の例

- 高齢者単独世帯への声掛けなど、普段からのコミュニケーション構築
- 高齢者の方々の知見と経験をいかす地域福祉活動
- 有償ボランティアの検討など、持続可能な地域福祉の構築
- 単位自治組織と広域コミュニティ組織との機能・役割分担会議の開催
- 課題や将来像を共有する場づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	12	28.6%
取り組まなかった	30	71.4%
無回答	0	0.0%

具体的取組とその効果など

- ・高齢者単独世帯への声掛けなど、普段からのコミュニケーションを構築した。
- ・住民マップを作成し、非常時での体制や声かけ避難等における準備をしている。
- ・老人クラブが中心になり色々な行事を企画しコミュニケーションを図っている。専門の方に来てもらい健康長寿をめざし皆で研修をしている。
- ・高齢者世帯への除雪ボランティアの実施

地域課題⑥ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 子どものころから地域活動に関わることができるように、開催日や運営形態等の工夫
- 伝統行事や伝統芸能への理解促進と継承活動の支援

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	13	31.0%
取り組まなかった	29	69.0%
無回答	0	0.0%

具体的取組とその効果など

- ・子供達も参加の集会場周辺及び芝公園と町内全域の草取り(年3回)、日常生活において経験のできない臼による餅つき及びあんこ入りの丸餅作り(年1回)
- ・獅子舞があり子供の頃より参加し一緒に大切な伝統芸能へ継承している。
- ・自治会と子供会による環境整備活動を行なった。(山林の美化活動)
- ・子供会、自治会役員参加で四阿(あずまや)周辺の桜整備
- ・伝統行事や伝統芸能への理解促進と継承活動を支援した。
- ・地域の環境整備に農地水の部会と連動し、取り組み住民の交流と環境づくりと推進した。
- ・長沼活性化委員会とぽっぽの湯運営協議会が合同でぽっぽの湯の環境整備、美化活動に取り組んだ。
- ・子供の頃から地域活動に関わることができるように、理解と継承活動の支援(子供獅子・子供神輿)
- ・子供の頃から地域活動に参加できるよう事業の進め方を見直した。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・会員の高齢化が進み、高齢者の1人世帯、夫婦のみの世帯が増加している。また年々空き家件数が増加している。会員数の減少。
- ・町内会や地域の行事に参加する人が固定化し、何にも参加しない人が増えている。
- ・空家問題
- ・コロナウィルス感染症のため活動がしにくい。
- ・集落の構成員が高齢化しており、またコロナ禍で制限がかかる中、住民の意識改革も含め、取り組みが難しい。
- ・地域においても町内会内においてもコロナの影響で活動が極端に制限され、思った活動が出来なかった。
- ・町内会役員（会長、会長代理、会計）のなり手がいなくなっている。他の役職でも。空き家（空豚舎）問題
- ・空き家の樹木処理、獅子踊り後継者
- ・年代層でギャップが有るため、性別・年齢を越えた事業をよく意見を聞きながら取り組んで行く予定。
- ・1人世帯の増加、高齢世帯の増加
- ・最近になって、空き家が増えていく傾向にあります。劣化による壁や瓦の落下、樹木が隣家で邪魔になっているという問題が発生している。
- ・どこも共通だが、若人がいなく高齢化が進み、人口減をどうするか。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・町内会の世帯が多く参加できる祭など企画できたらと考えている。
- ・以前は見かけない植樹柵への防草シート張り 1カ所でも多く草花を植え、きれいで住みやすいまちづくりをしたい。令和3年度においては、7カ所の植樹柵に紅白の芝桜植え、又緑化事業交付金受け、花壇の整備(芝桜)を実施。今後も継続して取り組んでいきたい。
- ・子供会の資源回収に、町内会住民も参加する。
- ・町内会自主防災計画の作成、鶴岡市避難行動要支援者個別計画への取り組み
- ・地域と連携した、高齢者福祉事業の構築

地域課題① 地区自治振興会を核とした活動の推進

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織の維持と活動内容のPR
- 各種団体・組織の統合・再編の検討
- 地域コミュニティの実態を把握するための調査の継続実施
- 住民の声を反映した「地域ビジョン」の策定
- 各種団体組織（広域コミュニティ組織、単位自治組織、社会福祉協議会等の団体）による情報交換会の開催、連携に向けた検討
- アドバイザー職員による行政側の情報提供、地域課題の情報収集、解決に向けた取組支援

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・広域コミュニティ組織の活動内容のPR
- ・住民の声を反映した「地域ビジョン」の推進
- ・各種団体組織による情報交換会の開催、連携に向けた検討
- ・アドバイザー職員による行政側の情報提供、地域課題の情報収集、解決に向けた取組支援
- ・地域ビジョン作成の為に住民意向調査アンケートの実施（対象 小、中、高校生、一般）
- ・全戸配布のセンターだよりで、活動内容を定期的に周知
- ・町内会公民館連絡協議会、青少年育成協議会を廃止、スリム化、効率化を図る。
- ・地区内民生児童委員との懇談会を定例化し、情報交換
- ・ぽっぽの湯の運営が第3セクターから地元組織の運営協議会に移行するに当り、積極的に関わりその一翼を担った。
- ・防災士を招いての防災研修会、庁舎担当者を講師にした地域ビジョン策定説明会等を開催し、地区住民や各町内会役員等の意識啓発に取り組んだ。

地域課題② 持続可能な運営方法の確立

★具体的取組の例

- 会費のあり方の検討
- 住民合意に基づく活動の優先順位付けや内容の見直し
- 地域資源を活かしたコミュニティビジネスの導入
- 住民自治組織の存在意義や役割、活動等を広報紙のほか、ホームページやSNSを併用して発信

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・住民合意に基づく活動内容の見直し
- ・住民自治組織の存在意義や役割、活動等を広報紙で発信
- ・月一回広報誌の発行

- ・町内会役員との会議を設定し、会費等の見直しを毎年行う。
- ・実施の事業については実行委員会を設け、内容の検討を行っている。
- ・長沼地区の各種負担金の見直しを図り、軽減に取り組んだ。
- ・町内会連絡協議会、青少年育成協議会、生涯学習推進委員等との連携を密にし、諸事業の実施方法等について、都度協議し、改善を図っている。

地域課題③ 地区内外の団体との連携強化

★具体的取組の例

- 各種団体組織（広域コミュニティ組織、単位自治組織、社会福祉協議会等の団体）による意見交換会の開催、連携に向けた検討
- 人材育成のための研修機会の充実（単位自治組織若手を対象とした研修会、PTAと連携しての地域人材育成研修会、コミセン職員研修会等）
- 町内会長連絡協議会等地域全域で構成される組織と広域コミュニティ組織との連絡調整会議の開催

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・各種団体組織による意見交換会の開催、連携に向けた検討
- ・人材育成のための研修機会の充実（単位自治組織役員を対象とした研修会等）
- ・「東栄地域を語る会」を開催し、町内会と自治振興会（広域コミュ組織）の連携に努めた。
- ・町内会役員、民生児童委員との定期的な会議を設け、連携強化を図っている。
- ・研修機会を設定し、特に防災意識の高揚を図っている。
- ・振興会理事会、町内会長会、町内会役員会等で連絡調整を密に実施。
- ・藤島地域の他地区自治振興会と情報交換の場を設け、効率的、効果的運営に努めた。
- ・関係団体等との連携を強化しながらも、諸事業に女性や若者の声が反映できるよう、参加枠を設けたりして協力を依頼している。

地域課題④ 福祉と防災で新たな役割を確立

★具体的取組の例

- 単位自治組織と広域コミュニティ組織、市による機能・役割分担の確立
- 単位自治組織と情報を共有する体制づくり
- 学校、保護者、単位自治組織、広域コミュニティ組織、地域団体との連携による「見守り隊」活動の実践
- 関係団体等との協働による防災訓練の実施
- 高齢者の生活ニーズを踏まえ、持続可能な課題解決の手段として、コミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 中学生・高校生の防災意識の高揚（応急処置講習会、防災訓練への参画）
- 災害に即応し、自助共助が発揮できるまちづくりの推進
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・単位自治組織と広域コミュニティ組織、市による機能・役割分担の確立
- ・単位自治組織と情報を共有する体制づくり
- ・関係団体等との協働による防災訓練の実施
- ・災害に即応し、自助共助が発揮できるまちづくりの推進
- ・東栄地区防災情報誌の作成
- ・見守り隊に協力
- ・市の災害時地区指定職員と災害における動向について共通理解している。
- ・特に町内会長と緊密に連携しあい、協力体制の確立に努めている。
- ・公共交通空白地域の解消の為、八栄島地区自治振興会と共にデマンド交通運営協議会の設立に取組み、実証運行にこぎつけた。
- ・自治振興会職員の災害時の初動体制を各町内会に示したり、地区総合防災訓練に各町内会長から参加してもらったり、防災研修会を実施したりして、各町内会の自主防災体制が機能化できるよう働きかけている。また、旧児童館を高齢者や子育て世代等の居場所として活用できるよう、青少年育成協議会役員等の協力を得ながら第一段階として外回り周辺の整備に取り組んだ。

地域課題⑤ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 子どもたちの郷土愛を育む地域教育活動の実践
- この地域でなければ経験できない伝統芸能、食生活、スポーツなどに、子どもたちから触れ合う事業を実施
- 地域と学校の連携・協働によるコミュニティスクールの導入と地域学校協働活動の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・子どもたちの郷土愛を育む地域教育活動の実践
- ・この地域でなければ経験できない農業体験、食生活などに、子どもたちから触れ合う事業を実施
- ・東栄小学校と協力し伝統芸能である獅子踊りの指導を行った。
- ・学社連携事業でアソベンチャークラブを開催し、推進員や地域住民の協力を頂き、わら文化を次世代に伝承するべく、勉強会等を行い世代間交流を深めた。
- ・小学生を対象にした事業を年6回、保護者や地域の各団体の協力を得て実施、多世代との交流も企画、実施
- ・自主運営の放課後子ども教室を毎月開催し、地元の支援員の協力を頂きながら、郷土の偉人について学んだり、昔遊びやコマ作り、押し花などを行い、世代間交流も深めた。
- ・ドリームランドで様々な体験機会を提供したり、小学生に夏休みの宿題に取り組む場を提供したり、中学生からボランティアとして地域に関わってもらえる場を提供したりしている。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・ 少子高齢化におけるコミュニティのあり方。
- ・ ウイズコロナによるイベントと行事のあり方。
- ・ 少子化の中、スポ少の選択肢が広がっている為、地元で従来から応援に力を入れている剣道への入団者が少ない。
- ・ 少子化、高齢化等により、運動会をはじめ町内会対抗で実施してきた事業等の内容や実施方法等を検討する段階に来ている。
- ・ 築 70 年近くにもなる老朽化した体育館が避難所となっている。現体育館と同規模以上の、避難所対応ができる交流施設の、早急な建設計画が強く望まれる。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・ 防災情報誌の作成
- ・ 地域ビジョンの作成
- ・ 長沼地区全体の防災組織の構築
- ・ プロジェクトチームを立ち上げ、住民アンケートを実施し、地域ビジョンの策定を進めている。より良いビジョン策定に向けてファシリテーター等の協力者がいてくれたらと思う。
- ・ 旧渡前児童館の再生活用に向けて、内部使用に至るには電気設備や大人用のトイレ設備等の改修、外回りにも大型遊具の設置等多額の経費を必要とする。宝くじ助成等を活用し整備できればと考えている。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・ 地区民が参画して使用する市の施設を使用するのに、使用料が発生する。これでは、活動を縮小ということになりかねない。

地域課題① 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直し
- 将来を見据えた会費のあり方の検討と、共同作業の見直し
- 近隣する単位自治組織との交流と協力体制の構築
- 新しい生活様式に対応し、SNSやオンライン化の導入の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	27	46%
取り組まなかった	31	52%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・将来を見据えた会費のあり方を検討し、4年度から減額することとした。
- ・役員同士の連絡にグループLINEを使用するようにしたら負荷が軽減された。
- ・公民館等の補修等が将来必要になった時に備え、積立基金を設立し決議された。
- ・隣接する集落との組織化（消防団）をはかった。
- ・役員の任期を2年から3年に延長した。
- ・役員がスムーズに毎年変わることができる体制を検討した。
- ・集落内の公園整備やゴミステーションの塗装を行った。
- ・集落内の共同作業の際、高齢者は免除することにした。
- ・集落委員会で現状把握するとともに、今後10年間の人口推移を想定の上で集落役員配置や任期の見直しを検討した。併せて、集落費の見直しを行い、令和4年度より減額した。集落役員相互の情報伝達は、面談の重要性も考慮しつつも、SNSの一斉配信を活用することでスピードアップを図っている。
- ・全世帯が区長などの役員を経験するよう自治会編成を行っている。
- ・コロナ禍で制限のある中での組織づくりであったが、高齢化が進む中、役員の兼務等で将来を見据えた組織づくりができた。高齢化の中、役員をできる人材に限られ、選出に苦勞するようになった。
- ・活動センターとの連携による事業への参加と防災組織づくりを実施した。
- ・公民館の改築により、集落住民、集落各組織が集まりやすい環境づくりができた。
- ・世帯数が5年前から5件減少した。市からの交付金と集落会費を合わせると約9万円の減少となる。支出の大半が寄付金、賛助金等で、実際事業に使えるのは数万円だが、ここ2年はコロナで賛助金額も減少し、辛うじて赤字にならなかった。一部、負担金を見直し、女性1,500円を男性と同額の3,000円に改定した。
- ・効率的な組織再編のため隣組の再編に取組み、12組から11組とした。

地域課題② 多様な人材の活用と役員等の負担軽減

★具体的取組の例

- 役員負担軽減につながる効果的な組織体制の見直し
- 単位自治組織が抱える課題・将来像を共有する場づくり
- 女性や若者を登用し、幅広い年齢層が参加しやすい集落運営の仕組みづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	22	37%
取り組まなかった	36	61%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・各組織との協力体制を作っている。
- ・集落内の各団体長会議を年2回開催し、集落の課題、将来像を共有した。
- ・幅広い年齢層が参加しやすいように役員4役（区長、区長代理、会計、監事）を原則的に2年で順送りするようにし、組織の活性化を図った。
- ・一人暮らし高齢者は集落内の連絡係をしなくてもよいことにした。
- ・若い年代を登用し将来的な人材の確保を図った。
- ・女性を登用し幅広い年代が参加しやすい事業運営の仕組みづくりを行った。
- ・自治組織に若い人（60歳）を早く入れるよう努力した。
- ・一度役員になると最低16年間も拘束されてしまうため誰もが役員になりたがらない。役員の負担軽減のため、今年は集落で行っている敬老会を老人クラブに移管し、食事会をしてもらった。
- ・役員の負担軽減につながるよう、保健推進員や体育主任などの役員は30～40代の男女を選任することで老若男女問わず集落に関わる運営ができた。
- ・役員間の連絡にSNSやSMSを活用した。また、集落費の支払い日を集落のイベントの機会にするようにした。
- ・従来の男性主体の役員体制を打破するために女性にも声をかけたが賛同を得ることができなかった。一方区長は充て職等多くの重責を抱えているので、区長代理制度を設けて区長の負担軽減を図った。結果区長の負担軽減に効果があった。
- ・会計の業務負担軽減のため、JA口座の他、近くの金融機関に口座を新設した。またパソコンで集計等をするため、会計補佐を新設し会計の負担軽減を図った。

地域課題③ 多世代が交流し、あいさつを交わし合える地域づくり

★具体的取組の例

- 地域の特性を活かした多世代参加・交流型事業の開催
- 若者が事業を通じて企画・運営の達成感や充実感を感じられる仕掛けづくり
- 笑顔であいさつを交わし気軽に話し合える雰囲気や場づくり
- 子どもが地域の大人とつながり、体験を通して地域の魅力を知ることによるふるさと大好きな子どもの育成

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	15	25%
取り組まなかった	43	73%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・子供会を中心に女性部・老人クラブで花壇づくりをし、交流を図っている。
- ・夏祭りで子供たちが神輿引きをすることで地域の大人とつながるようになった。
- ・集落行事に全員が参加できる行事を作る。
- ・小さい子供から高齢者まで、住民が参加する清掃美化運動と花の植栽事業などを実施することで、幅広い年代が交流することができた。
- ・小中学生が下校時に積極的にあいさつを交わし児童生徒からもあいさつの声が出ようになってきた。
- ・納涼大会を開催し、子供から大人まで楽しめるイベントを開催した。
- ・ゴミ収集や今年度から取り組んだ花いっぱい活動を通じ、笑顔であいさつを交わし合える場づくりをコロナ禍であったが感染に気を付け取り組んだ。

- ・小学生1人のため、子供会でやってきた事業ができなくなっている。今後は4人ぐらい増える予定である。
- ・従来から活動に多世代の人が参加してくれているので、特に取り組む必要がなかった。
- ・地域振興と共に多世代が一堂に会し交流する機会として「ホタル祭り」を計画していたが、コロナ禍により中止となり実施に至らなかった。

その他

- ・広域コミュニティ組織に依存している。

地域課題④ お互いを見守り支え合う安全で安心な地域づくり

★具体的取組の例

- 自主防災組織の機能点検及び広域コミュニティ組織と連携した事業体制の構築
- 有事に備えた住民情報の把握と見守り・支え合い体制の仕組みづくり
- 他団体と連携した高齢者等交流・支援活動の実施
- 空き家情報の把握と市への情報提供

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	21	35%
取り組まなかった	37	63%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・集落内の空き家の道端の草刈を行った。
- ・世帯員名簿を作成したら、一人暮らし世帯が浮き彫りになった。
- ・各団体と連携した高齢者等の交流支援を行った。
- ・各個人の家、土地の環境整備について周囲の人に迷惑をかけないようにみんなで取り組んだ。
- ・家屋情報の把握と市への情報提供を行った。
- ・●●集落防災マニュアルを作成した。
- ・集落の消防団の協力のもと、各家庭を訪問し火災予防に努めた。コロナの影響で地区防災訓練は中止となった。
- ・組長中心に（8組作成）隣組コミュニティの組織強化を図った。
- ・危険箇所の点検を行った。
- ・自主防災組織は機能しているし、活発な意見交換も行われている。有事の際の住民情報把握や見守り・支え合いの体制づくりもできている。空き家情報把握と市への情報提供も行われている。
- ・集落内農道のアスファルト化と安全対策看板を設置した。
- ・自主防災組織の情報伝達訓練で、初めてメールを活用し活動センターへ送信する訓練を行った。
- ・集落内の避難場所の確認をした。
- ・空き家を把握して安全確保を心掛けている。

その他

- ・老人クラブやPTAを中心に集落内の交流ができているので、特に新たな取り組みはなかった。
- ・防災組織を活用し実際に活動することが必要になると思うが、生活の多様性等で活動することは難しい。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・コロナの影響で組織活動や十分な話し合いができない。少なくなった。
- ・高齢者の増加による移動、買い物の手段の検討が必要である。
- ・大雨の時に集落内の河川が増水し危険なため、川の中の雑木の撤去。
- ・自治会役員の成り手の育成。
- ・神社の氏子の減少。消防団員の後継者がいない。
- ・空き家、独居高齢世帯の増加。
- ・防犯、防災の意識改革。
- ・ゴミ集積所の管理に苦慮している（他集落からの不法投棄多く困惑）。
- ・冬季降雪時、除雪が遅く集落内で苦情が出ている。
- ・後継者のいない世帯が複数存在していることや、結果として今後も空き家件数が増加する見込みであること。
- ・後継者が新世帯を都市部に構えるケースが多く、結果として高齢者世帯、独居世帯を解消できない。
- ・来年度小学生がいなくなり、小学校PTA会費の集金方法の対応についてどうするか。
- ・集落排水路に産業廃棄物と思われる複数の物品が放置されており、大雨時排水能力低下している。
- ・高齢化が進み20代、30代がほとんどいない。R4以降は小学生もいなくなる中、集落組織を維持していくことが難しくなっている。集落行事の参加時も高齢化が進み作業量の軽減が課題になっていくように思われる。
- ・高齢化、人口減少が進み、様々な組織運営が難しくなりつつあり、より大きなコミュニティへの依存度を上げなければならないこと。
- ・子どもの人数減少で、子供会活動が少なく小規模である。
- ・役員のなり手がおらず苦慮している（特に区長、会計）。
- ・防火水槽を設置する場所をどこにするか。
- ・集落内の放置された小屋全部と空き家の一部が今冬の大雪で崩壊した。小屋については持ち主が片付けるとのことだったが、空き家の方は持ち主が関東に住んでおり、行政から連絡を取ってもらったが今のところまだ連絡がない。このままだとトタン板が風で近所に飛ばされる被害が出るのが心配である。どうにかならないものだろうか。
- ・空き家における雪害や動物等による被害

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・公民館の建替え、改築、維持を検討。
- ・集落の役員に、老人クラブ、消防、PTA、婦人部から一人ずつ任期1年で入ってもらい、現行の役員を減らし任期を16年から8年ぐらいに半減したいと思う。
- ・住民同士のコミュニケーションの場を確立したい。世帯構成が若く子供中心で、集まる機会を作るのが困難な状況である。
- ・集落のサロン室を活用して、プロジェクターを使ったDVD映画の上映会を計画してみたい。機材の貸出しや調達について、鶴岡市でアドバイスがあれば伺いたい。上映内容については、集落住民のリクエストをアンケートし、月に1回程度の上映会を試みる。DVD映画上映会をきっかけに住民同士があいさつを交わせれば良しとするし、一つの話で住民同士が会話できればなお良し。低料金のワンドリンクサービスも同時に行いたい。お菓子の持ち込みは自由とする。
- ・松ヶ岡開墾150年記念事業。
- ・自主防災訓練の実施。
- ・近くに自転車道があることから子供会と協賛し自転車で行く羽黒山石段登山。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・屋内にいと防災行政無線が聞こえないので対策を検討してほしい。
- ・集落の人口減少の中での組織の役割はどうすればよいか。
- ・高齢化、少子化で行事があっても人が集まらなくなっている。
- ・運動会実施の場合、時間、内容を考慮願いたい（短縮、集落対応なしなど）。
- ・他地域の良いところ、優れた点など、情報収集したら必ずフィードバックしてほしい。
- ・公民館を地域活動の拠点として活動しているが、水道を使用しない月も一定料金を支払っている。利用しない月は水道使用料金を0円としていただきたい。
- ・コロナ禍で活動が制限される中、このままでは地域コミュニティが知らず知らずにしぼんでいき、それが当たり前の地域とならないよう先を見据えて集落も活動していかななくてはならない。
- ・単位自治組織 69 集落と旧町村と比較しても非常に多く、本来のコミュニティを運営するのに課題も多くある中で健全な組織体制を構築する意味でも集落の再編成が必要と思う。但し行政主体（トップダウン）の発想ではなく、各集落からの盛り上がりが絶対的に必要である。
- ・活動センターは情報を毎月発信してくれるし、地区を活性化させるために努力していると思う。区長会も毎月開催して、コミュニケーションがよくとられていると思う。
- ・コロナ禍で活動を推進することは不可だった。

地域課題① 身近な地域の居場所づくり

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ活動についての研修会や情報交換
- 広域コミュニティ活動の地域内外への発信
- 地域資源を活かしたコミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 適正な受益者負担の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・毎週金曜日の百歳体操、女性セミナーでの編み物教室等、小学生対象の料理教室を行った。
- ・地域住民が誰でも参加できるイベントを通して、老若男女世代を超えた親睦と交流の場を提供した。
- ・広域コミュニティ活動について地域内外へ発信した。
- ・コロナ禍でなかなか集まりができない環境だったが、外部団体と連携し高齢者のサロンを行った。また、子供たちの遊び場として平日と日曜の一部をコミセン開放し、コロナ禍でのストレス発散の場を提供した。

地域課題② 単位自治組織と連携した事業体制と新たな人材育成

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織による単位自治組織への支援
- 地域の現状と目指すまちの姿を共有し、地区住民の声を反映した「地域ビジョン」の策定
- 地域活動に参加する契機の創出
- 地域コミュニティに関わる団体・組織との交流
- 新たなリーダー輩出につながる、サブリーダーからの人材育成と達成感を感じる仕掛けづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	2	50%
取り組まなかった	2	50%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地域住民の声を反映した集落を超えて支え合う住民主体の地域コミュニティの在り方とその形成に向けての条件整備や方向性を示した「地域ビジョン」を策定した。

その他

- ・運動会、冬季レク等の大規模なイベントが開催できず、また各集落との接触機会も減ったため、地域との関係が多少希薄になった。

地域課題③ 郷土愛を育む学びの場と地域の魅力を発信できる仕組みづくり

★具体的取組の例

- 子どもたちの郷土愛を育む社会教育活動の実践
- 小学校等と連携した協働活動の推進
- 若者に魅力ある子育てしやすい環境づくり
- 地域外から人材を呼び込み、地域力の維持・強化と地域の魅力の再発見と発信
- 新しい生活様式に対応し、SNSやオンライン化の導入を検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	75%
取り組まなかった	1	25%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・恒例の羽黒山朝山登山は天候により中止となったが、ホテル観賞会や地区内の公園を利用してツリーイング体験会を行った。
- ・農作業を通じた世代間交流事業を行った。
- ・地区の子供たちやサークル団体の成果を発表する場を提供した。
- ・広報(紙)の他に Facebook を活用して地区の魅力や情報を発信した。

地域課題④ 自主防災組織と連携した防災の体制づくり

★具体的取組の例

- 情報伝達、情報収集方法の構築
- 単位自治組織の自主防災会への働きかけや支援
- 地域の実情に即した避難訓練や防災研修等の実施

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	75%
取り組まなかった	1	25%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・11月に羽黒地域防災訓練の会場となり、各集落区長から参加してもらった。
- ・地区を5ブロックに分け、毎年順番で防災訓練を実施している。
- ・地区住民を対象に避難訓練や防災研修会を実施した。
- ・各組織と連携を図りながら情報伝達、情報収集の方法の構築に努めた。
- ・防災思想の高揚と地域の実情に即した各種訓練や講演会等を実施した。

その他

- ・総合的な防災組織がないこともあり、連携した取組みは行っていない。

地域課題⑤ 安心して暮らし続けられるコミュニティづくり

★具体的取組の例

- 高齢者や要支援者の見守り支援体制の構築
- 各種団体や組織と連携した防犯体制の取組
- 不良空き家化の予防啓発
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・鳥獣被害対策として講習会を2回行った。
- ・高齢者限定で段ボールや新聞等の回収を行った。
- ・地域住民を対象とした事業の中で、全国規模で起こっている詐欺被害の情報等を提供し、心構え・予防策を啓発した。
- ・各種団体や組織と連携し高齢者や一人暮らしの見守り支援体制の構築に努めた。
- ・広報紙に、普段目にしない身近な防災知識を2年余り連載し、災害への備えを各戸に周知している。特に女性に関連した項目を多く掲載し、男性にも知ってもらうようにしている。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・大雪対策について
- ・少子高齢化に伴う子育て支援や、一人暮らしの方への支援、空き家問題について。
- ・買い物支援の取り組みを始めたが、住民の反応が全くなく、誰も困っていないようである。やる側と受ける側の考えも全く違うようで、一方的な進め方ではよい取り組みでも流れてしまうようだ。受け手側からは、興味が湧くような新たな方法が求められている。
- ・地域的な課題である鳥獣被害対策に積極的に取り組んでおり、次年度はさらに拡大したいと考えている。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・地域通貨の導入。景観整備事業。
- ・活動センターの活動等をSNSで発信していきたい。
- ・様々な事業やイベントが、コロナ禍で規模縮小している中、地域と一体感を取り戻す柱になっている各種の大きなイベントをコロナ前のように開催していきたい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・コロナ禍になり趣味のサークル活動やお年寄りの通いの場が減少した。また飲み会等も無くなり地域の活性化が減少したと思う。
- ・現役世代が参加、参画できる内容の事業が少なく、すべての事業が高齢者子どもメインである。また、現役世代はコロナ禍で行動が制限され、少しずつではあるが地域コミュニティが希薄になってきているように感じる。コロナ収束後、再び地域に活気が戻ることを祈ります。

地域課題① 広域コミュニティ組織の検討

★具体的取組の例

- 近隣する単位自治組織との情報交換や交流と協力体制の検討
- 広域コミュニティ組織の活動を共有する機会と場づくり
- 単位自治組織の将来像の共有と区長会、自治公民館連絡協議会等との意見交換会の実施

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	0	0%
取り組まなかった	21	100%
無回答	0	0%

地域課題② 住民自治組織等の理解促進と事業の見直し

★具体的取組の例

- 近隣する単位自治組織との情報交換や交流と協力体制の検討
- 一体感を醸成するための子どもから高齢者まで参加できる事業の実践
- 市民まちづくり活動促進事業補助金等、地域コミュニティの課題解決のための事業の活用
- 組織や活動等理解してもらえるよう総会資料の工夫や広報の検討
- 事業活動の見直しとともに適正な自治会費の検証
- 若者や女性の参画に向けた住民ニーズの把握
- SNSの活用などによる役員負担の減

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	19%
取り組まなかった	17	81%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・自治会活動理解促進のため、総会資料を毎年全戸配布している。
- ・自治会広報を年4回発行、自治会活動に理解を求めよう努力している。
- ・県事業を受けワークショップを実施。
- ・役員負担の平準化など、自治組織の見直しを検討した（R4継続）。

地域課題③ 次代を担う人材育成と後継者対策

★具体的取組の例

- 民俗芸能や伝統文化への理解促進と継承活動の支援
- 子どもの頃から地域固有の歴史や文化、伝統、産業などへの理解を促す機会づくり
- 地域の特徴である果樹栽培を始めとした農業の魅力を伝え、若者が就労先の一つとして選択できるような支援
- 結婚を後押しする雰囲気づくりと子育てしやすい環境づくり
- つるおか婚シェルジュの周知と連携
- 若者や女性を登用し、SNSの活用など、得意分野を活かした役割分担により、自分が必要とされている喜びや達成感を感じる仕掛けづくり
- 若者の参画のもと、農業生産者等との連携による環境美化活動等の実施
- 地域と学校の連携・協働によるコミュニティスクールの導入と地域学校協働活動の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	2	10%
取り組まなかった	19	90%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・ 県事業を受けワークショップを実施。
- ・ 地域ビジョンをブラッシュアップした。

地域課題④ 安全・安心な地域の構築

★具体的取組の例

- 防災意識の高揚を図るための定期的な防災訓練や防災座談会の開催
- 支援が必要な人と支援ができる人の把握と見守り・支え合い体制の仕組みづくり
- 緊急時や災害時に備えた住民情報収集の必要性の確認及び、取り扱い方法、活用方法の確立
- 自主防災組織の機能の点検と体制整備
- 消防団機能別消防団員の確保
- 見守り隊の機能の点検と体制整備、青色パトロール隊活動の支援
- 高齢者世帯の増加を見込み、高齢者のニーズ（除雪・買い物・通院等）への支援体制づくり
- 毎月1日に交通安全・防犯の小旗を掲揚し、地域ぐるみで交通事故防止・犯罪防止に努める
- 空き家の実態把握、所有者に対する適正管理の指導
- 空き家等に関する転出時の単位自治組織での取り決めの検討
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	19	90%
取り組まなかった	2	10%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・ 要支援者の見直しを行い、担当者との情報を共有した。
- ・ 防犯灯の増設を行い、危険個所の減少を図った。
- ・ 駐在所、小学校と見守り隊との話し合いを行い、子供たちの安全を守った。
- ・ 要支援者の把握と支援できる人との支え合い体制確認。
- ・ 青色パトロール隊活動の支援。
- ・ 毎月1日に交通安全・防犯の小旗を掲揚し、事故防止・犯罪防止に努めた。
- ・ 空き家などの実態把握と、所有者に対して取り壊しを含む適正管理の指導。
- ・ 県事業を受けワークショップを実施した。
- ・ アドバイザー職員制度を活用し自主防災計画を策定した。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・ 青年層の人数が少なくなってきており、色々な活動（スポーツ参加・伝統芸能維持）に支障が出てき始めてきた。
- ・ 防災計画など整備しなければならない課題があるが、地域にあわせてどこまでの計画とすべきか大きな問題としている。
- ・ 市道の交通規制について、（例えば、交差点の一時停止標識の設置）住民の要望があるが、取り上げてもらえない。
- ・ コロナ禍で地区事業がなかなか実施できないが、実施できないことを歓迎している向きが感じられる。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・年に1度開催する地区の軽スポーツレクリエーション大会を今年度は開催したい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・空き家の老朽化が目立ち、地域にとって問題が生じているが解決策がわからないので、行政からの支援を強く希望する。
- ・新規の入居が多いことから、隣組のつながりが希薄に感じられる。
- ・昔ながらの助け合いの心が薄く感じられる。
- ・地域の先に立ち、リーダーとなる気持ちが薄い。(自分がしなくても誰かがやってくれるという気持ちが強くなっている)

地域課題① 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 住民組織の意識改革を行いながら、女性や若者が発言・活躍できる場を作る
- 広域コミュニティ組織と連携・協力しながら、自治会組織役員の負担軽減を実現する
- 単位自治会を超えた複数自治会での活動を模索する
- SNSなどを活用し、新しい情報発信のあり方を検討していく

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	6	24%
取り組まなかった	19	76%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・人口減少や高齢化が進んでいることから隣組の再編成及び役員構成の見直し等を検討し、役員選出に関する規約の改正を行った。
- ・役員構成について、若い年齢層を厚くすることで自治会活動への意識向上に繋がった。また、女性部の活動や冬季健康教室等の実施により、若い世代の参加を促すことができた。
- ・自治会行事に全世帯参加することで自治会を持続している。「共に生きる」ことで家と家、自治会を繋いでいる。
- ・自治会長による「自治会だより」の発行により、住民間での情報共有を図ることができた。
- ・公民館修理のための積立ての可能性について話し合った。

その他

- ・現状は限界集落を乗り越えて消滅するのではと本気で考えてしまう。

地域課題② 住民による魅力的な事業づくり

★具体的取組の例

- 幅広い年代が参加しやすい事業の開催
- 単位自治会を超えた複数自治会での参加しやすい事業を開催する
- 生涯学習活動において、広域コミュニティ組織・地区公民館連絡協議会と連携した事業、単位自治会でできる事業のすみ分けを考えていく

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	20%
取り組まなかった	20	80%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・小学生から高齢者までを対象としたグラウンドゴルフ大会を地区内の公園で開催し、終了後に収穫感謝祭を行った。
- ・広域コミュニティ組織の支援によりサロンを開催することで、高齢者が集まり、話し合う場を設けることができた。
- ・公園遊具（ブランコ、すべり台、鉄棒）の錆びている箇所に塗装修繕を行い、子どもたちが安全に遊べるようにした。

その他

- ・現在実施している事業以上の実施には無理がある。

地域課題③ 安全安心な地域づくりのための組織づくり

★具体的取組の例

- 防災拠点施設となる広域コミュニティ組織との連携の強化
- 社会福祉協議会等、他団体との協力による見守り活動や情報共有の継続と充実
- 地域の消防団や行政と連携し、有事の際には地域に住む人たちが協力しあえる仕組みづくり
- 空き家の所有者の把握と、適正管理の指導や助言

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	13	52%
取り組まなかった	12	48%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・昨年度策定した自主防災組織計画に沿った安全安心な地域づくりを行った。
- ・役員を対象に地域防災アドバイザーを講師に迎え、作成中の自主防災計画案に助言をいただいた。
- ・自主防災計画を作成した。
- ・新執行体制のもと自治消防組織図を作成し、全戸配布した。
- ・消火栓等の集落の安全点検や防災訓練、各家庭に火災予防チラシを訪問配布する集落内巡視点検を行った。
- ・集落の安全点検（消火栓・危険箇所点検、防火用水堀の網掛け作業）、防災訓練（消火栓放水訓練）、集落内巡視点検（各家庭に火災予防チラシを訪問配布）を行い、安全安心な地域づくりを推進した。
- ・消防団と連携し、消火栓、貯水槽の確認・点検を行った。
- ・自主防災組織で消火栓用ホースの更新を行った。
- ・防火水槽の泥上げや、冬期間外していたカーブミラーの農道への取り付けを行った。また、水害防止のための側溝の泥上げ掃除を行った。
- ・市及び自治振興会主催の防災研修会に参加し、研修内容を自治会内で共有して自主防災意識の向上を図った。
- ・防災アドバイザー派遣による出前講座を活用して防災学習会を開催した。公民館が避難所となっていることから、今後防災対策・計画の検討を行っていきたい。
- ・自主防災活動として初めて避難訓練（水害訓練）を行い、防災意識の向上を図った。
- ・地域内空き家の見回りを実施した。

地域課題④ 単位自治組織の財産管理や環境整備事業の見直し

★具体的取組の例

- 将来を見据えた会費のあり方の検討
- 隣接する自治会との共同作業の検討
- 土地や建物の財産管理や共同作業の見直し

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	12	48%
取り組まなかった	13	52%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・コロナ禍により自治会事業を見直し、会費を減額とした。
- ・神社・寺院補修や災害時補修のための積立を継続している。
- ・公民館の火災保険の補償内容について、見直しを行った。
- ・公民館トイレを洋式化した。
- ・補助事業の活用により、地域内林道や農道の砂利敷き、コンクリート舗装整備を行った。
- ・次年度の実施に向けた公民館屋根改修工事の実施・設計について話し合い、補助金の活用により進めることとした。
- ・公民館屋根の経年劣化により、塗装工事費用の積立てを新設し、次年度に実施予定とした。
- ・高齢化により和式の公民館トイレが使いづらいという要望があり、来年度中に洋式化する予定とした。
- ・公民館屋根を落雪式に変更するための検討を行い、見積りや設計を依頼した。
- ・平成25年度から27年度までの3カ年で市補助事業による地域づくり協議会を設置し、川岸への桜の植樹や鉢山跡地への看板設置等整備、誘客事業実施による地域づくり、除雪機の導入による玄関前の除雪協力事業を実施してきた。これらの事業の維持管理を継続して行っている。
- ・自治会役員と消防団員とで用水掘の泥上げを行った。
- ・公民館や消防ポンプ小屋、ゴミステーションの雪下ろしを自治会事業として行った。
- ・地域内公園の草刈りや自治会所有の公園内物置の雪下ろしをこまめに行い、いつでも利用可能な利用環境の向上を図った。

地域課題⑤ 希薄化した連帯感の再構築

★具体的取組の例

- 単位自治組織と広域コミュニティ組織が連携した活動の実施
- 単位自治組織を広域コミュニティ組織が支援する仕組みづくり
- 単位自治組織でできることはできるだけ単位自治組織ですという自覚を持つ場づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	11	44%
取り組まなかった	14	56%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・コロナ禍でなかなか交流の機会が持てないことから、グラウンドゴルフ大会や輪投げ大会、新年会を工夫して実施し、交流や親睦を深めた。
- ・グラウンドゴルフ大会を毎年継続開催することで地域の連帯感の構築を図っている。
- ・例年行っていた祭事や行事について、新型コロナウイルス感染防止のため直会を行わずに工夫して開催し、連帯感の維持に努めた。
- ・若い世代の連携を図ることを目的に広域コミュニティ主催の軽スポーツ大会に地域で参加した。
- ・コロナ禍で多くの行事を中止としていたが、昨年できなかった河川清掃等を実施することができ、多くの参加により自治会活動の意識向上が図られた。
- ・地域全体で道普請、道薙ぎを実施した。
- ・毎月24日に集落費の集金をしながら様々な地域課題を議論したり、お互いの近況報告等をしたりする情報交換の場を設けることで、情報共有や連帯感の構築を図っている。
- ・毎月集会（寄合）を開催し、情報交換・共有を図っている。
- ・集落の7割以上が高齢者世帯であり、また集落の約半数が独居世帯であることから、全戸、全員で声掛けと助け合いをしなければならない中で、自治会行事をはじめとして連帯感は構築されている。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・集落内の人口が少なく、高齢化が進んでいるため今後が不安である。
- ・転出等により自治会構成員が減少している。
- ・地域内の高齢化や人口減少により、これまで自治会で請け負っていた公共設備の管理や市道の草刈り業務等について、対応できないことが増えている。
- ・役員の人材確保が困難なため、自治会運営や事業のあり方の見直し、検討が必要である。
- ・高齢化により役員のなり手不足が今後の課題である。集落単位ではなく地区単位で運営した方が良いのではとの声もある。
- ・少子高齢化が進み、様々な自治会行事や共同作業の実施に支障をきたしている。また、自治会行事に積極的に参加する意識が希薄化し、自治会に対する無関心が心配される。
- ・高齢化により隣組単位での活動維持が困難な状況であり、隣組再編成等の検討も必要と考える。
- ・地域内に重要な生活用水路があるが、相当年数経過していることから全体の調査や修繕等の整備計画が必要である。
- ・地域内の施設管理、建物の老朽化や高齢化が課題である。
- ・地域内の空き家について、損傷の激しい建物は野生動物の棲み処となっているものもあるため環境衛生面からも早期の対策が必要である。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・転入による自治会構成員の増を目指し取り組むべき事業や先進地事例等の学習会への参加。
- ・自主防災計画内容の情報共有により、防災意識を高め、防災訓練を実施する。
- ・大きな災害に備えた防災訓練を実施し、個々の役割を明確にし、防災意識を向上させたい。
- ・若い人たちが自治会事業に積極的に参加するような方策を模索している。
- ・汎用的なアプリの活用により、地域力を上げ、住みやすい地域にしていきたい。
- ・お宮、公民館等の草刈りや雪下ろし等の維持管理について、現段階でも苦勞している。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、計画した事業が実施できず、住民同士の交流や連帯感の構築が難しい。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、人と人との間の取り方に近くて遠い空間を感じる。
- ・今後の高齢化の進行により、事業のあり方を検討した方がよい。
- ・集落内の小学生が1名ということで、少子化を一段と実感している。
- ・今年度はコロナ感染症により地域活動が全て中止となり、住民同士の交流ができない状況であった。
- ・山間部は昔から伝統的な結(ゆい)の精神が根強いいため、お互い様の気持ちで助け合っている。

地域課題① 住民理解の促進と単位自治組織への支援

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織の活動意義と活動内容等を広報紙のほか、ホームページやSNSを併用して発信
- 単位自治組織で実施が困難となっている活動・研修への協力と支援
- 子どもの頃から地域固有の自然や歴史、文化、伝統、産業などへの理解を促すような機会づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・敬老会や地区運動会の持ち方などの地域課題について、自治会長や地区公民館連絡協議会との話し合いによる相互理解のもとで進めた。
- ・自治会との合同会議の開催により事業説明等を丁寧に行い、相互理解のもと事業を実施することで地域課題解決に努めた。
- ・毎月発行するコミセンだよりのタイトルに住民の声を採用し、読んでもらえる工夫をしながら活動内容の掲載による住民理解を図った。
- ・自主防災会活動の支援として避難所開設についての防災研修会を開催した。

地域課題② 人材の確保に向けた検討

★具体的取組の例

- 人と人とのつながりができるような事業や研修会の実施
- 地元講師の発掘と、講師を活かした事業の実施
- 若い世代の声を地域に活かすため、性別や年代を超えた語り合える場を作る
- 生涯学習推進員を巻き込み、単位自治組織と広域コミュニティ組織の連携を強める事業を実施する
- 意欲ある生涯学習推進員の掘り起こしを進め、研修の充実を図る

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・東北公益文科大学地域共創コーディネーターとの連携による若い世代の語り合いの場の企画・運営や、若者をターゲットにした趣味講座等の開催により、若者同士のネットワークづくりを図った。
- ・観光やインバウンド支援を視野に入れ、新たな地域発信を目標とした英会話教室を開催した。
- ・地元講師を起用した生け花教室や中学生の夏休み・冬休み塾を開催した。
- ・生涯学習推進員が率先してグラウンドゴルフのゴール常設やグラウンド整備を行うことで、いつでも気軽にグラウンドゴルフができる環境を整備することができた。
- ・敬老会研修会等の開催やクリスマス忘年交流会の開催により、地域住民の交流や親睦を深めた。

地域課題③ 希薄化した連帯感の再構築

★具体的取組の例

- 朝日地域自治振興会連絡協議会（広域コミュニティ組織の連合組織）が主体となって事業を実施できるような仕組みづくり
- 子どもから高齢者まで世代を超えて集える場づくり
- 地域が学校に関わるコミュニティスクールへの協力・支援
- 地域と学校の連携・協働による地域学校協働活動の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・ コミセン利用者の多くが高齢層となっていることから、新たな世代の利用者層の開拓や子どもを含む子育て世代が気軽に利用できる情報交換の場として、親子の繋がりを大切にすることを目的とした趣味講座（ケーキづくり）を開催した。
- ・ 高齢者の要望に応えたパソコン教室を開催した。
- ・ 中学生以上を対象としたソフトバレーボール大会や年齢に関係なく参加を募ったボッチャ大会などの各種軽スポーツ大会の開催により、世代間交流や連帯感の構築を図った。
- ・ 自治会にサロンの開催を促し、自治振興会が事務処理を支援することで、自治会によるサロンの定期開催が実現し、住民間の意思疎通や交流が深まった。
- ・ 子供会育成会との共同事業（星空観察・花火大会）の開催や地域スポーツ少年団、敬老会の参加による大ホール（体育館）ボランティア清掃の実施により、地域内の世代間交流・親睦を図った。
- ・ 中学校と連携した週末塾を開催することで、生徒の学びの機会の充実を図った。

地域課題④ 安全安心な地域づくりのための組織づくり

★具体的取組の例

- 単位自治組織と情報を共有する仕組みづくり
- 自主防災会と連携を強化し、災害の避難訓練や研修会の実施
- 空き家の実態把握と適正管理の指導や助言
- 社会福祉協議会等他団体との協力による高齢者や支援が必要な人に対する見守り活動等の支援
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・ 自主防災会活動の支援として避難所開設についての防災研修会を開催した。
- ・ 敬老会の生涯学習セミナーとして、市防災担当職員を講師に招き、防災研修を行うことで防災意識の向上を図った。
- ・ 克雪対策事業として、地域内互助の仕組みによるおたがい様除雪支援活動を行った。（支援者8名、要支援者12名）
- ・ 地域版「見守りの心得」を作成し地域に配布することで、孤独死の防止や緩やかな見守りによる支え合いの意識の醸成に努めた。
- ・ 住宅地図に高齢者世帯情報（高齢世帯、独居世帯等の区分・連絡先）を追加して独自の防災マップを作成し、避難所となる各公民館に配置した。
- ・ 独居高齢者の緊急連絡網や近隣住民で緩やかに見守るネットワークの構築を検討中である。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・若い世代の活動が停滞しているように思う。また、女性が地域で活躍する場がないように思うが、本人たちが望んでいるかは分からない。
- ・参加者が少なくなっている敬老会祝賀会の開催方法が課題である。
- ・コロナ禍により従来の競技主体での運動会の開催は困難であり、子供の数が激減している中での地区運動会のあり方が課題である。
- ・芸術・文化・食等地域の伝統文化の継承がしにくい状況になっている。
- ・運転免許証返納者に対する買物支援・代行の組織を立ち上げる時期にきているのではないか。
- ・住民自治組織を広域の地区として考える必要があるのではと思う。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・地域の伝統文化を調べ再確認するとともに継承に向けた体制の整備。
- ・40代の若者から入ってもらいできる事業等を組めないか模索していきたい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・地域コミュニティの役割とは何か。文書では示されており、分かっているつもりであるが、あまりに広範囲で悩んでいる。
- ・地域ビジョンの策定に向けて自治会ごとのワークショップを検討中であるが、人口減により一人何役も担う中での度重なる会合の依頼は非常に心苦しいものがある。地域ビジョンを策定することによるメリット、特に可視化できるメリットを提示していただければ、我がこととして真剣に取り組めるのではないかと思う。今ここに生活している人たちが各々の幸せの価値観のもとで心豊かに生きることこそが大事であり、あえて共通見解のビジョンが必要なのか考えてしまう。

地域課題① 健全な財政運営に向けた検討や、組織の見直しによる役員等の負担軽減

★具体的取組の例

- 住民合意に基づく会費収入に見合った事業運営の見直し
- 公民館類似施設運営・活動費補助金の有効活用

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	17	63%
取り組まなかった	10	37%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・コロナ禍により教養部事業が減少したことから、主事と教養部長を兼務することにし、役員を1名減らした。(手当の削減)
- ・「自治会財政見直し指針」に基づく予算の検討を行った。
- ・自治会組織検討委員会を設置し、現在継続して検討している。(役員の選出方法、各部の合併再編成、人数等)
- ・若者が集落を離れ、老人世帯が増加し役員のなり手が不足したため、4部から3部体制にして組織の見直しを図った。
- ・役員のなり手が不足しているため、役員が揃って話し合う機会は年3回位で後は電話でのやり取りで済ませた。
- ・自治会費及び組織の見直しを行った。住民負担軽減のため自治会費を78%に減額。各報酬等も2割カットし現状に合った組織改革を行い、役員を1名減にした。ただし、各行事の予算は減らさないで現状維持。
- ・将来まで持続可能な取り組みが必要。2019年から自治会役員で今後の自治会費のあり方(改革)について話し合いを始めている。
- ・世帯数の減少、人口の減少に見合った事業を行うこととし、徴収金の減額を図った。
- ・毎月開催している定例役員会を、急を要する議題等がないときは開催しないこととし、役員の負担軽減を図った。
- ・役員の負担軽減のため、事業内容などの見直しを行った。
- ・仕事をしながら自治会長を務められるようにした。
- ・令和2年度から常勤職員を廃止した。
- ・令和3年度から自治会費算定基準の全面改正を行った。
- ・自治会組織、機構を見直す検討会議を行った。

地域課題② 将来を見据えた単位自治組織の検討

★具体的取組の例

- SNSの活用など新しい生活様式の導入
- 若者や女性等、多様な人材の活躍の場づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	14	52%
取り組まなかった	13	48%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地縁団体への移行(共有財産の登記)
- ・役員同士LINEでやり取りを行い、会議の日程等を連絡できるようにした。

- ・役員の連絡を LINE で実施しようと思いメンバー集めをしているところであるが、いまだに LINE をしていない方もいるので困る。
- ・行事や運営のあり方の話し合いの段階である。
- ・各部所の合併等（兼務できるもの）で部の数を減らし、スムーズな体制に改革した。
- ・役員での議論、検討の内容（素案）について、コロナ禍のため自治会員の皆さんに提案（投げかけ）できない状況が続いている。お互いの意見交換を行いながら方向を見据えていく。将来は高齢化世帯の 1 人・2 人暮らしの負担を考えたい。
- ・自治会役員や他団体役員にも女性の参加を呼びかけ、複数名の方から役員として協力いただいた。
- ・人口減少を見据え、一人一役、全員参加の協力を呼びかけた。
- ・自治会予算を実績に合わせた予算とし、離村等で自治会費を減収するときは、その額分事業費を減らす。

地域課題③ 安全で安心して暮らせる防犯・防災対策の推進

★具体的取組の例

- 住民が災害対策意識を強く持つように、定期的な避難訓練と有事に備えた話し合いの機会や講習会の開催
- 自主防災組織の機能点検

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	15	56%
取り組まなかった	12	44%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・全自治会会員による避難訓練を行うとともに、有事に備え防災備品等の使い方、保管場所の確保や点検を行った。
- ・防災計画書を作成した。
- ・コロナ禍のため避難訓練は行わなかったが、自主防災計画書を配布し理解を深めてもらった。
- ・集落の一日研修会で温海分署の協力を得て、公民館で救急救命の講習を行った。
- ・毎年同じ内容の自主防災訓練でなく、昨年は「防災サポート出前講座」を活用し、住民の防災意識の高揚に努めた。
- ・防災倉庫を設置しており、今後防災備品をそろえて役員に確認してもらう予定。地区自治会の役員で防災研修会を実施した。
- ・コロナ禍ではあったが、住民参加の計画を通してコミュニケーションを図り「不安」の減少に取り組んだ。
- ・12月3日の火災記念日、6月18日の山形県沖地震を忘れないために、毎年行動（夕方、公民館前に自治会役員、消防幹部集合）し、有線放送、パトロールで意識を確認し合っている。
- ・震度7の地震発生を想定し、高齢者の避難と安否確認を重点とした避難訓練を行い、防災意識を高めた。
- ・自主防災会による空き家などの予防査察を行った。
- ・初期消火訓練、小学生による火の用心活動を実施した。
- ・老朽化した有線放送設備に替えて無線放送設備を整備し、引き続き市の防災無線を各家庭でも聞けるようにした。

地域課題④ 次代を担う若者や子どもたちを取り巻く環境づくり

★具体的取組の例

- 世代間交流などによる伝統行事や伝統文化の継承への動機づけと支援
- 地域理解を深めるための学習支援

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	8	30%
取り組まなかった	19	70%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・公民館事業の実施
- ・子供の減少により何も行っていない。伝統芸能等の継承ができない。(考えていかなければならない)
- ・若者が温海地域を離れるのを止める手立てがない。
- ・コロナ禍により2年間祭典が中止となり、獅子舞等の伝統芸能の継承が希薄になる。令和4年は何としても実施することの決意を若い世代で共有した。「コロナ共存、ウィズコロナ」
- ・地区自治会で漁業体験、おもしろ実験教室を実施した。放課後子ども教室に対して公民館でも協力している。
- ・コロナ禍で中止となったが、「リーダー研修会」の受入れ等の検討をすすめ、集落内・外に集落の伝統を伝える手段を発見することができた。
- ・当自治会は、小学生5人、中学生1人、高校生4人、保育園児は0人。将来的に、地域で子どもを育む環境整備を真剣に考える必要がある。
- ・集落に残る伝統芸能の保存活動・伝承活動を子供たちと行った。
- ・世代間交流を兼ねて運動会や芋煮会、そば感謝祭を実施し、住民の親睦を図った。

地域課題⑤ 高齢者等福祉の視点に立ったコミュニティづくり

★具体的取組の例

- 高齢者が持つ知識や経験を活かした地域づくりの推進
- 日常生活での見守り・支え合い体制の仕組みづくりと強化

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	17	63%
取り組まなかった	10	37%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・老人クラブが行う健康づくり、レクリエーション等に公民館施設の開放を積極的に行い、推進に努めた。
- ・百歳体操等実施している。
- ・ミニデイサービス以外の取り組みができていない。民生委員の力に頼っているのが現状。
- ・花いっぱい運動を実施した。
- ・お年寄りを中心に「なり元気塾」を開催してきたが、コロナ感染拡大により中止となった。
- ・コロナ禍で高齢者の行事が中止になる中で、集落の奉仕作業を4回行い、高齢者同士のコミュニケーションを促進した。

- ・地域の女性会と民生委員で1人暮らしの高齢者に月1回（毎月20日）あたたか弁当を届けている。
- ・コロナにより夏祭り等ができず残念だった。
- ・健康座談会を通し、健康づくりを図った。
- ・当自治会では、数年前に老人クラブが解散している。会長、副会長、会計等の担い手がない。
- ・老人クラブ会員が中心となり健康教室を開催し、介護予防、健康づくりを図った。
- ・高齢者を対象とした健康教室（ICT）を開催し、健康づくりを図った。
- ・生き生き百歳体操クラブを設立した。
- ・新たにスマホ教室を行事として取り組んだ。（包括支援センターと共催）
- ・年3回の「おそうじボランティア」を実施した。65歳以上が対象で楽しそうに集まって話をしていた。平均35名位参加した。
- ・コロナのため敬老会は中止となったが、紅白まんじゅうを配り地域をあげて敬老を祝った。また、老人クラブに花植えを依頼し、集落内の環境整備に活躍してもらった。

地域課題⑥ 広域コミュニティ組織の検討

★具体的取組の例

○地区自治会の今後のあり方の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	1	4%
取り組まなかった	26	96%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・温海地域に広域コミュニティ組織は馴染まないと思う。各集落単位での活動が長いため。
- ・地区自治会全体そして小学校区として、防災や学校行事に協力している。
- ・危機感がお互いに意識されれば幸いだが、何も感じないのであれば単位集落は無くなってしまおうと考える。そうなった場合は、広域コミュニティになるのかと？

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・消防団が無くなったことで防災体制の見直しが必要。
- ・空き家、廃屋が増え危険。
- ・高齢者のみの世帯の増加。
- ・代表者になれる年代が少ない。引き受けてくれる人がいない。
- ・少子高齢化により、行事のスムーズな運営が難しくなっている。神事、仏事のスリム化または簡素化して負担のかからない方法を考え中。
- ・役員のなり手不足、若者世代がいない。
- ・災害時、特に津波避難での体の不自由な方の避難をどうするか、自治会役員・民生委員・消防団と対策を練っている。
- ・ここ数年で少年会の人数が少なくなり、小学生3人、中学生3人になり活動が危ぶまれたが、少人数でも活動できる行事を模索しながら継続していくことを共有している。

- ・新型コロナウイルス感染防止の観点から、地域の祭典が3年連続神事のみとなっている。(当地の祭典は三密の最たるものである)
- ・高齢化に伴い、集落内活動の参加者が減少
- ・消雪道路の実現。
- ・課題と言うよりも超少子高齢化は社会現象であり、当自治会のことではないが将来(10年後、20年後以降)自分達の集落の姿を診断することがあればと考えている。
- ・職業の多様化により、有線放送だけでは情報伝達に限度がある。(毎月の自治会だよりで事業などの日程は周知している)
- ・流雪溝の管理が容易でない。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・消火器や消火栓を使用した初期消火訓練の実施。
- ・公民館を開放して子供、高齢者へのお茶飲み場(カフェ的なもの)、将棋、囲碁、ゲーム、遊び場の提供など。
- ・避難所の整備。
- ・趣味を活かした仲間づくり。
- ・高齢者が多く、公民館に椅子とテーブルを整備したい。(補助事業として)
- ・花いっぱい運動は、会員の高齢化もあり自治会員だけでなく団体を創設することで維持していく方法を検討する。
- ・「未来づくり委員会」を立ち上げ、いろいろな意見を吸い上げ、できる行事から取り組もうと、R4年度に計画している。
- ・今の自治会事業で、いっぱいである。
- ・集落内での全員参加の既存行事の継続。他集落では夏祭り等の廃止、老人クラブ等の解散がみられるが、創意工夫を行い継続事業がなくならないように努める。また、イノベーション勉強会を開催予定。
- ・新型コロナウイルスと共生できるようになり、通常どおりの行事(祭典、夏祭り等)ができるようになりたい。
- ・毎年行っている「雪灯籠祭り」の参加者を集落外からも募りたい。
- ・日常生活に必要な設備(ごみステーション・バス停)の整備。
- ・自治会内に例えば老人クラブ、青年会、婦人会、若妻会、各スポーツクラブ(ゲートボール、グランドゴルフ、野球部等)があれば、賑わいや活気生まれて、担い手や行動が自然に行われていくが、現在では各年代の人員がアンバランスのため、どのように自治活動を考えていけばよいのか難しい。
- ・集落運動会が人口減少のため(特に子供の減少)できなくなった。運動会に代わる軽スポーツを模索中。
- ・将来的には、自治会における高齢者福祉対策(屋根の雪おろし、自主除雪含む)が大きな課題となるが、それに携わる人も65才~70才まで常勤の時代で人材不足。
- ・自治会組織以外の組織との交流、自然文化の保存。
- ・集落内を流れる流雪溝は冬期間の重要な設備だが、延長が長く住民数の減少もあり維持管理が容易ではない(草刈り、土砂あげ)。取水部分も自然流水なので、大雨でたびたび壊され全体的な整備が必要。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・自治会に交付する総合交付金の充実（増額）を望む。
- ・ペーパーレス、IT 利用。
- ・やはり自分の住む集落の未来のシミュレーションを知ることから、村の将来をみんなで考えることが大事だと思う。
- ・「温海地域（中山間集落）を今後どう守るか」のテーマで小中高生及び若い方達との意見交換会を行いたい。最初に集落ごとに行い、さらに自治会長会等で実施できれば。お互いの志向・考え方が分かり合えるし、新しい形のコミュニティが生まれるのでは。
- ・新型コロナウイルスにより、地域の行事が中止となっている。コロナ禍の地域コミュニティのあり方が問われている。保育園、小中学校等との地域のつながりも薄れてきている。
- ・コロナ禍で計画していた事業が中止されてしまうことで、高齢者の引きこもりにつながってしまうことが心配される。楽しみと思ってもらえるよう、事業内容も検討し、参加しやすい事業に変更していくことが必要だと思われる。
- ・従来から地域には総合交付金等の助成があるが、将来的にもこの補助が可能なのか、今後自治会独自でやっていくことになるのかが自治会の役員としては心配をしている。
- ・子供がいないから活気が無い。集落の中を歩いている人がいない。
- ・デジタル化については、費用の件、情報発信者の選定、発信内容の決定など課題。

第2期計画における「目指す5年後の方向性」の実現に向け、鶴岡地域では6つの地域課題を設定し、取組例を示しています（計画P29～32等でご確認願います）。貴組織の取組状況等について、ご回答ください。

地域課題【鶴岡地域・単位】		取組状況		具体的取組とその効果など（取組んだ場合記入）				
① 将来を見据えた持続可能な組織づくり		<input type="checkbox"/> 取組んだ <input type="checkbox"/> 取組まなかった						
② 活動の担い手となる人材の確保と育成		<input type="checkbox"/> 取組んだ <input type="checkbox"/> 取組まなかった						
③ 情報発信と会員確保		<input type="checkbox"/> 取組んだ <input type="checkbox"/> 取組まなかった						
④ 地域課題の解決に向けた取組の実施		<input type="checkbox"/> 取組んだ <input type="checkbox"/> 取組まなかった						
⑤ 災害に備えたコミュニティづくり		<input type="checkbox"/> 取組んだ <input type="checkbox"/> 取組まなかった						
⑥ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり		<input type="checkbox"/> 取組んだ <input type="checkbox"/> 取組まなかった						
共通指標	住民同士の対話（話し合い）を積極的に行った	そう思う ←□5 □4 □3 □2 □1 →そう思わない					デジタル化の推進 <input type="checkbox"/> 電子メールの活用 <input type="checkbox"/> ホームページの活用 <input type="checkbox"/> 汎用的なアプリの活用（LINE・Facebook・Twitterなど） <input type="checkbox"/> 自治会向け専用アプリの活用 <input type="checkbox"/> ウェブ会議システムの活用 <input type="checkbox"/> その他 []	
	地域活動への参加者が前年よりも増えた	そう思う ←□5 □4 □3 □2 □1 →そう思わない						
	子どもが活躍できる環境づくりを促進した	そう思う ←□5 □4 □3 □2 □1 →そう思わない						
	組織間の連携や地域外交流を促進した	そう思う ←□5 □4 □3 □2 □1 →そう思わない						
役員構成		20・30代	40・50代	60代	70代以上	計	備考：	
	男性							
	女性							
	計							
その他	地域で課題になっていることなどありましたら、ご記入ください。							
	具体的に考えている事業や取組んでみたい事業がありましたら、ご記入ください。							
	その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。							

ご協力ありがとうございました。令和4年4月27日（水曜日）まで鶴岡市コミュニティ推進課へ提出ください。
 ※本シートは、提出前にコピーをとっていただき、計画の冊子と一緒に保管いただくなど、計画的な取組を推進くださるようお願いいたします。